Hokkaido University News

北大時報

令和8年
10
No. 871 October 2026

令和8年度北海道大学インターンシップを実施
令和8年度技術連携統括本部インターンシップ受け入れ事業を実施
官学連携による「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を実施



No.871　令和8年

目　次　10


北海道大学×Columbia Sportswear Japan「アウトドアアカデミー」を実施


令和8年度北海道大学学業優秀者表彰式を挙行

全学ニュース

1　令和8年度北海道大学インターンシップを実施

2　株式会社ファイターズ スポーツ＆エンターテイメントと「エンターテイメントサイエンスアカデミー」を開催

3　北海道大学×Columbia Sportswear Japan「アウトドアアカデミー」を実施

4　HTBマスコットキャラクター「onちゃん」大学院入学式を実施

5　令和8年度Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙行

6　令和8年度北海道大学学業優秀者表彰式を挙行

7　JST「未来の博士フェス2026」にEXEX/次世代AI博士人材フェローシップ支援学生が参加

8　北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

11　令和8年度技術連携統括本部インターンシップ受け入れ事業を実施

12　瀬戸口理事一行が米UMass Amherstを訪問

13　由仁町教育委員会と連携した環境学習の実施

14　北海道マラソン連携プロジェクトにおけるSDGs農園での野菜収穫体験を実施

15　官学連携による「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を実施

16　親子で学ぶ「北大研究林のサイエンス教室」を苫小牧研究林で開催

17　「国民との科学・技術対話」支援事業　今年度は24名の研究者が参加

部局ニュース

19　公共政策大学院が「被災者支援」をテーマに「HOPS地方議員・地方公務員向けサマースクール」を開催

20　医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

21　医学研究院が動物慰霊式を挙行

22　医学研究院ヘルスケアAIXイノベーションセンターが第5回北海道大学医療AIシンポジウムを開催

23　農学部・農学院・農学研究院において「留学生見学旅行」を開催

24　国際広報メディア・観光学院　韓国にて留学相談会を実施

25　低温科学研究所が「2026年度　未来の女性研究者のための最先端研究体験プログラム」を実施

26　国際シンポジウム「第14回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を合同開催

27　スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催

28　共同利用・共同研究拠点プロジェクト型国際ワークショップ「技術信奉と経済成長の統制 1955-1991」を開催

29　遺伝子病制御研究所が動物慰霊式を挙行

30　「広域複合災害研究センターと厚真町との連携協力協定　締結式」を開催

博士学位記授与　31

レクリエーション

40　令和8年度学内教職員フットサル大会の開催

研修

41　令和8年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修

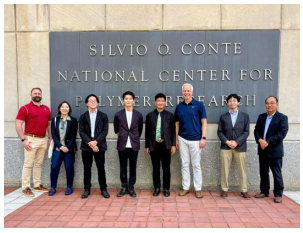
42　令和8年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

表敬訪問　43

人事　44

45　新任役員紹介

46　新任教授紹介



瀬戸口理事一行が米UMass Amherstを訪問


公共政策大学院が「被災者支援」をテーマに「HOPS地方議員・地方公務員向けサマースクール」を開催


国際広報メディア・観光学院
韓国にて留学相談会を実施


「広域複合災害研究センターと厚真町との連携協力協定　締結式」を開催

表　紙：HTBマスコットキャラクター「onちゃん」大学院入学式を実施（関連記事4頁に記載）

裏表紙：キャンパス懐古⑲　教養部前の運動会（1966年10月）

令和8年度北海道大学インターンシップを実施

8月31日（月）～9月4日（金）、本学の学生を対象とした、令和8年度北海道大学インターンシップを実施しました。

本インターンシップは、平成22年度から、学生に就業体験の機会を与えることにより、職業意識の育成・向上に寄与し、併せて本学に対する理解を深めることを目的として実施しています。今年度は7名の学生を対象として、実施しました。（別表参照）

初日に、開講式及び全体オリエンテーションを実施し、各部局担当者から「組織運営」「財務」「学務」「研究推進」「図書」「国際」「社会共創」「施設」の8個のテーマに基づき、本学の概要説明がなされ、その後、受入部局でそれぞれ実習を行いました。

実習を通して、学びたいことを明確にし、不明な点が生じた際は、積極的に質問するなど、非常に熱心に取り組まれていました。実習生からは、「より一層、北海道大学職員として働きたい気持ちが強くなった」など、実際に大学職員として働くことのイメージを実感するきっかけとなり、有意義な実習となったようでした。

今後もインターンシップを通して本学の魅力を発信し、多くの学生に就職先の一つとして本学職員を選択してもらえるよう、取り組みを続けていきます。

（総務企画部人事課）



実習に取り組む様子（調達課見学）



実習に取り組む様子（大学文書館見学）



実習の成果を報告する様子（学務部報告会）

受入部局	受入開始日-終了日【実働日数】	実習生	
		所属	学年
総務企画部	令和8年8月31日（月）-令和8年9月4日（金）【5日】	経済学部	3年生
財務部		経済学院	修士1年生
学務部		文学部	2年生
学務部		水産学部	4年生
研究推進部		環境科学院	修士1年生
社会共創部		国際広報メディア・観光学院	修士1年生
附属図書館		国際広報メディア・観光学院	修士1年生

（別表）

株式会社ファイターズ スポーツ＆エンターテイメントと「エンターテイメントサイエンスアカデミー」を開催

7月27日（月）、8月8日（土）及び9月6日（日）の全3回にわたり、株式会社ファイターズ スポーツ＆エンターテイメントとの連携により、小学4～6年生を対象とした「エンターテイメントサイエンスアカデミー」を開催しました。

本プログラムは、「楽しい」を科学することをテーマとして、子どもたちが北海道ボールパークFビレッジ及び北海道大学札幌キャンパスをフィールドに、身近なエンターテインメントの仕組みを探究することを目的に実施したものです。

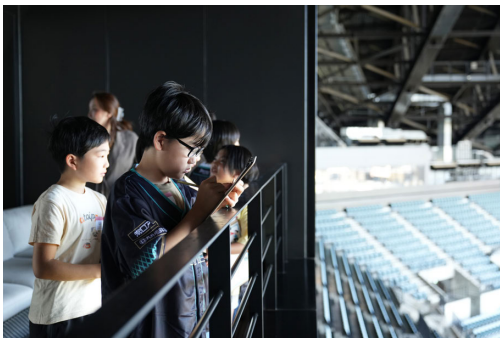
初回は、エスコンフィールドHOKKAIDO（以下「エスコン」という。）において施設見学を行いました。参加者は、普段は入ることのできないエリアも含めて見学しながら、「なぜ人が集まるのか」「なぜ応援したくなるのか」などの疑問を見つけ、探究活動の出発点となる問いを整理しました。また、薬学研究院の大久保直登講師による講義では、研究が身近な疑問から始まることや、問いを立てることの重要性について学びました。

第2回は、札幌キャンパスのオープンイノベーションハブ「エンレイソウ」で開催しました。工学研究院の豊原涼太助教による講義では、人の身体の動きや心拍数などのデータと感情との関係について紹介があり、目に見えない「楽しさ」をデータとして捉える研究事例に触れました。その後のグループワークでは、「エスコンをもっとワクワクする場所にするには」をテーマに、LEGO® SERIOUS PLAY®を活用しながらアイデアの検討を行いました。

最終回は、Fビレッジ内のKUBOTA AGRI FRONTにおいて開催し、参加者は、これまでの学びを踏まえ、「なぜエスコンにまた来たいと思うのか」「もっとワクワクしてもらうためには何ができるのか」をテーマにプレゼンテーションを実施しました。それぞれが施設見学や対話を通じて得た気付きをもとに、自らの考えや提案を発表し、多様な視点への理解を深めました。

本プログラムを通じて、参加者はエンターテインメントを楽しむだけでなく、その背景にある仕組みや工夫について考えるとともに、問いを立て、対話し、自らの考えを発信する探究活動を体験しました。今後も多様な機関との連携を通じて、社会とつながる学びの機会の創出に取り組んでまいります。

（学務部教育推進課）


エスコン内の施設見学を通じて「なぜ」を探す参加者たち



大久保講師による講義の様子


LEGO® SERIOUS PLAY®の様子


集合写真

北海道大学×Columbia Sportswear Japan「アウトドアアカデミー」を実施

9月2日（水）～4日（金）の3日間、上川町及び大雪山地域において、「北海道大学×Columbia Sportswear Japan アウトドアアカデミー」を実施しました。本プログラムは、本学、株式会社コロンビアスポーツウェアジャパン（以下「コロンビア」という。）及び上川町が連携して実施した初の取組であり、学年や学部が異なる学部生16名が参加しました。

本プログラムは、アウトドア活動を入口として、自然環境や地域社会、企業の取組について学ぶことを目的として実施したものです。登山経験の有無を問わず参加できるよう、コロンビアの協力により登山に必要なウェアや装備を貸与し、アウトドア未経験者でも参加しやすい環境を整えました。

初日は上川町役場を訪問し、上川町の概要や地域の取組について説明を受けたほか、層雲峡エリアにおいて自然景観の見学を行いました。また、宿泊先での共同生活を通じて、所属や学年を超えた学生同士の交流も深めました。

2日目は黒岳登山を予定していましたが、雨天のため安全を最優先し、登山を翌日に延期しました。代わりに層雲峡の紅葉谷においてハイキングを実施し、登山装備の使用方法や安全な歩行技術について学びました。また、上川町及びコロンビアによる講義の後、参加学生はグループに分かれ、次年度のプログラム参加者募集に関するアイデアを検討するワークショップに取り組みました。フィールドでの体験や交流を通じて得られた気付きを基に活発な議論が行われ、各班から具体的な提案が発表されました。

最終日は天候が回復し、大雪山・黒岳での登山を実施しました。前日に学んだ知識を実践しながら登頂を目指し、参加学生16名全員が無事に山頂へ到達しました。参加者は雄大な自然環境を体感するとともに、自然と向き合うための安全意識やチームワークの重要性について学びました。

参加学生からは、自然体験に加え、地域関係者や企業社員との交流、学生同士のつながりが印象に残ったとの声が寄せられました。本プログラムは、アウトドア活動を通じて自然、地域、企業及び人との関わりを学ぶ貴重な機会となりました。

（学務部教育推進課）


紅葉谷でのハイキング


夕食時の交流の様子


ワークショップの様子



黒岳山頂での集合写真

HTBマスコットキャラクター「onちゃん」大学院入学式を実施

9月26日（土）、北海道テレビ放送株式会社（以下「HTB」という。）1階「onちゃんテラス」において、HTBのマスコットキャラクター「onちゃん」の北海道大学大学院入学式を開催しました。

onちゃんは平成29年4月に北海道大学の特別学生として入学し、4年間にわたり学部での学びや学生との交流を通じて、本学の教育研究活動や学生生活の魅力を発信してきました。本学が創基150周年を迎え、新たな節目に合わせて、onちゃんが社会人大学院生として再び本学で学ぶこととなりました。

入学式には、寳金清博総長及びHTB代表取締役社長の寺内達郎氏が出席しました。式の冒頭では、onちゃんが本学で過ごした4年間を振り返る映像を上映した後、寳金総長から入学許可と学生証の授与が行われ、寳金総長からは激励の言葉が送られました。

続いて寺内社長は、創基150周年の節目に再び北海道大学で学ぶ機会を得たことへの感謝を述べるとともに、大学院での学びや学生との交流を通じて知見を広げ、北海道大学及び北海道の魅力を国内外へ発信することへの期待を寄せました。

今後、onちゃんはHTBでの活動と大学院での学びを両立しながら、更なる地域貢献に向けて活動していく予定です。

（学務部教育推進課）



記念写真（左から、寺内社長、onちゃん、寳金総長）

令和8年度Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙行

外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「Integrated Science Program（インテグレイテッドサイエンスプログラム：ISP）」の入学式を9月29日（火）に理学部本館において行い、当該プログラムの第10期生となる9名（7ヶ国）が学士課程に入学しました。

ISPは国際社会で活躍できる人材の育成を目的としており、学士課程では、入学後半年間で理系分野をはじめとする幅広い基礎知識を身につけ、その後、理学部（物理学科・化学科・生物科学科生物学専修分野）に移行して、専門教育を受けることとなっています。

入学式は、ISPプログラム長の網塚浩理事・副学長、副プログラム長の木村　敦教授、理学部長の永井隆哉教授、理学部物理学科の小林達夫教授、化学科の高橋啓介教授、生物科学科の相馬雅代教授が参列し、緊張の中にも和やかな雰囲気で執り行われました。最初に、網塚プログラム長が祝辞を述べ、本学の学生として一歩を踏み出したISP第10期生達に歓迎の意を表しました。

続いて、ISPコーディネーターの周睿風助教による新入生の紹介が行われ、タイ出身のジャクソン・ヘンリー・モーズレーさんが代表して宣誓を行いました。

最後は、ISP教員や先輩学生も交えて、列席者全員で記念撮影が行われました。

入学式終了後は、同会場にて理学部主催の新入生ガイダンスが開催され、各学科の紹介を中心とした興味深い内容に新入生達は熱心に聞き入っていました。

（学務部教育推進課）



プログラム長の網塚理事・副学長からの祝辞


新入生代表宣誓



記念撮影

令和8年度北海道大学学業優秀者表彰式を挙行

9月28日（月）、総合教育棟において、令和8年度北海道大学学業優秀者表彰式を挙行しました。

本表彰式は、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生を表彰する「北海道大学新渡戸賞」、1年次に履修した初習外国語科目の成績が特に優秀な学生を表彰する「北海道大学宮澤記念賞」、1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する「北海道大学レーン記念賞」、全学教育科目である自然科学実験において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた「北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－」の4賞を合同で表彰するものです。

表彰式は、網塚　浩理事・副学長、外国語教育センターから奥　聡教授及び土田映子教授並びに木谷慎一学務部長が列席しました。式では、網塚理事・副学長から受賞者33名（延べ35名）のうち、欠席者11名を除く22名に賞状が授与されました。

次いで、網塚理事・副学長から「知の最前線にいることに自信を持ち、その知をどう生かしていくか自分自身に問いかけ、考えながら進んでほしい」との激励の言葉が贈られました。

（学務部学生支援課）

【北海道大学新渡戸賞受賞者】

文学部	猪　瀬　広　貴
教育学部	田　中　万優子
法学部	山　田　愛　実
経済学部	佐　藤　果　倫
理学部	DIZON John Florence Aviles
医学部（医）	石　田　ひまり
医学部（保健）	大　城　朱　茜
歯学部	佐　藤　愛　桜
薬学部	村　形　埜　青
工学部	高　石　　穂
農学部	松　崎　花　音
獣医学部	大　石　健　心
水産学部	副　島　啓　代

【北海道大学宮澤記念賞受賞者】

（ドイツ語）	
文学部	原　　雄　真
教育学部	満　原　蒼　稀
法学部	村　上　圭　吾
（フランス語）	
農学部	市　田　悠　真
（ロシア語）	
文学部	片　岡　航　太
（スペイン語）	
文学部	北　山　明日香
（中国語）	
教育学部	田　中　万優子
経済学部	佐　藤　果　倫
法学部	姜　　雅　恵
（韓国語）	
法学部	三佐川　まどか

【北海道大学レーン記念賞】

文学部	福　留　いのり
法学部	澤　　あかり
法学部	日　野　双　葉
医学部	齋　藤　耕　輔
工学部	井　上　慧　悟
農学部	藤　岡　大　地
農学部	齊　藤　勇　太
水産学部	張　　墨　菲

【北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－】

18組	平　山　緑　紗
19組	李　　宰　玄
32組	石　亀　永　麻
41組	松　本　佳　歩



授与式の様子



網塚理事・副学長 挨拶



新渡戸賞受賞者記念撮影



宮澤記念賞受賞者記念撮影



レーン記念賞受賞者記念撮影



鈴木章記念賞受賞者記念撮影

JST「未来の博士フェス2026」にEXEX/次世代AI博士人材フェローシップ支援学生が参加

9月25日（金）、文部科学省及び科学技術振興機構（JST）が主催する「未来の博士フェス2026」が、東京国際フォーラムで開催され、会場及びオンライン参加により、企業、官公庁、学生、大学関係者が集まりました。「未来の博士フェス」は今回が4回目の開催で、革新的な技術や発想によって新たな価値を生み出す科学技術イノベーションの担い手として期待される将来の博士人材を産官学で応援するイベントです。

本学からは石森浩一郎事業統括（理学研究院教授・副学長）をはじめ、EXEX博士人材フェローシップ及び次世代AI博士人材フェローシップに関わる教職員と両博士人材フェローシップで支援する博士（後期）課程学生12名が参加し、参加学生は、自身の研究内容について、ポスター発表とデモンストレーションを行いました。発表学生のブースには、多くの来訪者が訪れ、活発な議論が展開されていました。

また、「企業における博士人材活躍の可能性について」をテーマとしたパネルディスカッションには、パネリストとして、吉原拓也教育イノベーション機構キャリアデザインセンター長・教授が参加し、本イベントを通じて、本学が輩出する優秀な博士人材の魅力をアピールすることができました。

学務部奨学・キャリア支援課では、今後も両博士人材フェローシップを通じて、当プログラムに参加する博士（後期）課程学生をサポートし、社会に対して博士人材の強みや魅力の発信、学生の将来の様々なキャリアパスの拡大に貢献していきます。

なお、当日の様子は後日、下記イベントサイトで公開される予定です。

https://www.jst.go.jp/jisedai/mirainohakushi2026/

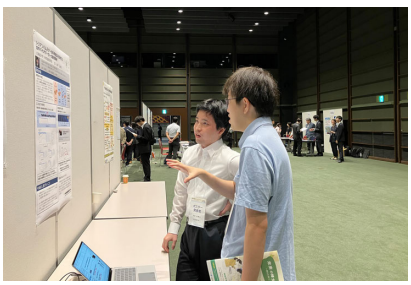
（学務部奨学・キャリア支援課）

【ポスター発表学生】

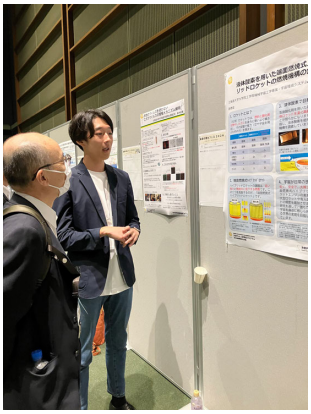
所　　属	学　　年	氏　　名
水産科学院	博士後期課程2年	南　口　蒼　太
水産科学院	博士後期課程1年	佐　守　那　菜
農学院	博士後期課程1年	荻　野　亮　介
生命科学院	博士後期課程1年	川　森　駿　弥
国際広報メディア・観光学院	博士後期課程3年	小　林　歩　夢
工学院	博士後期課程1年	孫　　泰　俊
医学院	博士課程2年	鈴　木　昭　寛
獣医学院	博士課程2年	糸　井　太希斗
文学院	博士後期課程2年	ビコーニャ　アリナ
文学院	博士後期課程1年	小　玉　花　菜
文学院	博士後期課程1年	福　田　悠　朗
情報科学院	博士後期課程3年	中　村　悠　希



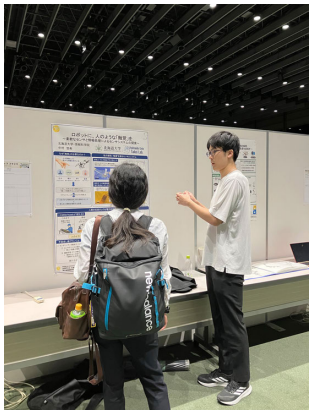
参加者集合写真



ポスターセッションの様子（糸井さん）



ポスターセッションの様子（孫さん）



ポスターセッションの様子（中村さん）

北海道大学創基150周年記念募金（北大フロンティア基金）

北海道大学は、創基130周年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、息の長い募金活動をすることとしています。

2026年8月に北海道大学は創基150周年を迎えました。次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金創設時累計	（8月31日現在）／62,378件	11,662,325,553円
うち、北海道大学創基150周年記念募金累計	（8月31日現在）／25,330件	5,497,556,996円

＜ご寄附状況＞

8月は446件55,542,993円のご寄附を賜りました。そのご厚志に対しまして、心より感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます（五十音別・敬称略）。

寄附者ご芳名（法人等）

旭運輸株式会社、医療法人友秀会伊丹腎クリニック、潮物産株式会社、株式会社ウッドクリエイト、エーワイハッピー株式会社、医療法人社団越前谷脳神経クリニック、株式会社オータカ建設、株式会社化合物安全性研究所、加藤直子皮膚科スキンクリニック、医療法人社団宏仁会北郷皮膚科医院、一般財団法人協済会、医療法人社団釧路ひがし耳鼻咽喉科、株式会社クリーンコーポレーション、株式会社クレタ、株式会社神戸製鋼所、学校法人幸明学園幼保連携型認定こども園幸明幼稚園、医療法人社団小林皮膚科クリニック、The Miner Foundation、株式会社神鋼環境ソリューション、スミセキ・コンテック株式会社、医療法人スワンアイクリニック、株式会社セロテック、一般社団法人全国治水砂防協会、美深町第1自治会青少年部、ダビスタ株式会社、株式会社ダンテック、株式会社中部衛生検査センター、株式会社ベリッシモ、北大野球部OB会、株式会社北海道技術コンサルタント、北海道大学校友会エルム、株式会社丸井足立、三井化学株式会社、もんなか皮膚科クリニック、医療法人社団緑生会

寄附者ご芳名（個　人）

合川　正幸	青井　良平	青木　俊介	青柳　良隆	青山　佳代	秋葉　幸範	秋山　道生	浅木　栄子
浅倉　良一	浅沼　佳南	東　剛己	安達真由美	渥海　航	阿部　啓子	阿部　雅史	阿部　芳久
有村　直子	有森　映二	安藤　伸	飯島　俊夫	池田　寿仁	池田　幸良	池田　梨子	石井　翼
石井　哲夫	石川　戡	石川　久会	石栗　秀	石田　克平	石野　悟司	石山　達雄	伊藤　宏
伊藤　雄三	犬飼　英明	井上　将希	猪熊　大輔	井原　博	今井　四郎	今井　晋	今井　久雄
入江　和彦	入澤　秀次	岩井　隆郎	岩崎　哲也	岩崎　倫政	上野　勝利	植松　宏志	縁記　和也
遠藤　公憲	浦木健太郎	梅本　由佳	猿渡　晴久	大岡　貴史	大塚　太郎	大原　正範	大森　秀治
小笠原一誠	岡田　英子	岡田　正樹	小川　恭孝	沖崎　遼	奥村　和久	奥山　満	小田原一史
小沼帆乃佳	小野里典明	小原　大和	小俣　美香	各務　雅基	笠原　寛	勝原　昌幸	加藤　駿
金川　聖也	金川　眞行	兼古　学	桄島　孝典	加部　一彦	川井　洋毅	川口　政史	川嶋　利瑞
川瀬　紀子	河渕　則良	岸本　佳則	北河　徳彦	菅野　彰一	木滝　俊郎	河本　充司	喜田　直孝
北野　耕平	北村　宏司	衣川　暢子	久々湊　聖	工藤　俊哉	久保　康一	倉元　祥伍	栗原　誠治
河内　正臣	上月　浩	越澤　勝	小関　成樹	小瀬村貴敏	小瀧　安史	小丹枝利昭	小西　治幸
小林　賢人	小林　清一	駒井　孝博	小向　志保	齋藤　完治	齊藤　晋	齋藤　久	境　政人
酒部　順子	坂本　大介	崎元　大志	櫻井　洋一	佐々木貴信	佐々木貴啓	佐藤　栄作	佐藤壮一郎
佐藤　智隆	佐藤　信雄	佐藤　康訓	澤田　武蔵	三升畑元基	塩見　祐子	重井　真琴	志済　聡子
柴　泰純	柴田　祐次	島本　則道	庄田　徹	白鳥　貴久	菅野　良介	菅原　育哉	菅原　新也
杉田　弘也	杉山　一成	鈴木　貴之	鈴木　光代	鈴木　康仁	関口　昇	関根　猛	瀬戸山洋介

瀬山　邦明
滝沢　昌彦
棚川　敦司
飛澤由紀子
仲野　暁登
西海　真一
野村　修一
林崎　弥生
吹野　　信
藤田　芳康
松井　　新
水谷　祐輔
村田　寛菜
山田　　哲
横田　哲也
吉村　里香

曽村　尚明
田栗　和奈
辻岡　孝郎
長江　洋次
中丸　裕爾
西尾　泰彦
橋本　　修
浜坂　幸吉
福井　　滋
藤原　圭志
松崎　　亮
三田村昭子
毛利　　衛
山之内久義
横山　　考
渡辺　尚志

高木　正和
武井　大樹
辻　　智子
中尾　紀子
中村　景子
西川　和子
橋本　昌美
林　　将人
福田　正晴
藤原　滉平
松下　弥生
湊　　博之
茂木　　透
山本　睦生
吉田　香織
米田　　穣

高木　桃恵
田子　　真
辻　　英幸
長尾　　博
中村　恵子
西里　静彦
長谷　成人
原田　　浩
福永　悟郎
古木　誠人
松原　謙一
宮田　信幸
安岡　　厚
横井　理夫
吉田　和彦
渡邊　　裕

高瀬登志彦
館田　双葉
對馬　　新
中川　和果
中村　敏春
西田　和代
服部　恭典
原田　祐司
藤井　治也
細川　威樹
松本　　剛
宗田　吉広
安陵　智代
山本　広美
吉田浩一郎

髙橋　　彩
田畑　　太
津田　春奈
中川　敦夫
中村冨士男
根来　清文
花田　秀一
檜佐　彰一
藤川　　新
堀内欣一郎
三木　證永
村井　亨正
安川真一郎
横内　葉子
吉田　幸治

高橋　克彦
辻井　正人
土屋　　努
中嶋　　洋
中谷　篤司
根本　　治
林　　達也
日比　幸人
藤澤　裕子
町田　泰一
三國　雅彦
村上　広輝
柳谷　憲治
山本　健也
吉田　英之

高村　隆太
田中　紀子
戸田　智弘
中西　郁里
仁木　　卓
根本　叔治
林寺　正俊
廣重　勝彦
藤田眞美子
松井　耕二
水嶋　祐治
村瀬徳啓充
山崎　孝子
余湖　兼右
吉田　広志

＜寄附者への特典＞

創基150周年記念銘板

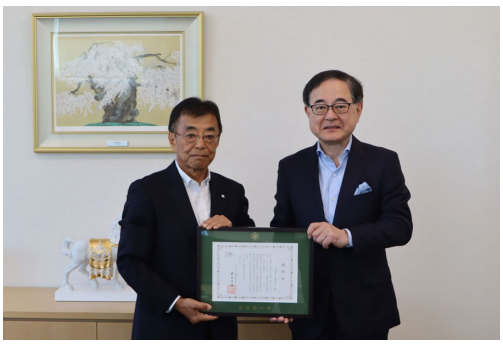
創基150周年を記念した銘板をご用意しました。銘板は、これまでのご寄附累計金額をもとに、本学総合博物館に掲出させていただきます。個人・法人共に、ご寄附の累計が1億円以上でプレミアムゴールド、1,000万円以上でゴールド、500万円以上でシルバー、100万円以上でブロンズとなります。

既存のホワイト銘板は累計20万円以上が対象です（令和2年度以前は総合博物館、令和3年度以降は百年記念会館に掲出）。

なお、銘板については、年度内に賜ったご寄附の累計を取りまとめ後、翌年度9月頃を目途に掲出いたします。

※このほか、ご寄附の金額に応じ、オリジナルグッズや感謝状の贈呈、御礼の場など様々な特典をご用意させていただきます（詳細はこちらでご確認ください　https://www.hokudai.ac.jp/fund/gratitude/ ）。

＜感謝状の贈呈＞



北海道ガス株式会社様（令和8年8月7日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員からの寄附」にアクセスしてください。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff/

①給与口座からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（給与口座からの引落）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室 基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室 基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室 基金事務担当までご持参ください。
申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室 基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済・PayPayでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　卒業生・基金室 基金事務担当（事務局・学内電話　2017）

令和8年度技術連携統括本部インターンシップ受け入れ事業を実施

北海道大学技術連携統括本部（ITeCH）は、8月3日（月）～7日（金）の5日間、工学部及び低温科学研究所において、国立高等専門学校の学生を対象としたインターンシップ受け入れ事業を実施しました。

本事業は、北海道地区の国立高等専門学校におけるインターンシップの一環として、技術連携統括本部が学生を受け入れ、北海道大学の技術職員の業務を体験する機会を提供するものです。国立高等専門学校の学生が将来の進路を考える際に、「北海道大学の技術職員」という選択肢を知るとともに、実際の就業体験を通じて、技術者として必要な知識や技能への理解を深めることを目的としています。

今回は、苫小牧工業高等専門学校創造工学専攻（機械系）1年生1名と、旭川工業高等専門学校物質化学工学科4年生1名の、計2名を受け入れました。

苫小牧工業高等専門学校の学生は、低温科学研究所において、工作機械を使用した実習に取り組んだほか、観測系技術職員の指導のもと、海洋観測の準備に関わる業務を体験しました。

旭川工業高等専門学校の学生は、工学部において、各種分析機器の仕組みや取り扱いについて学ぶとともに、分析機器の日常管理に関する業務を体験しました。

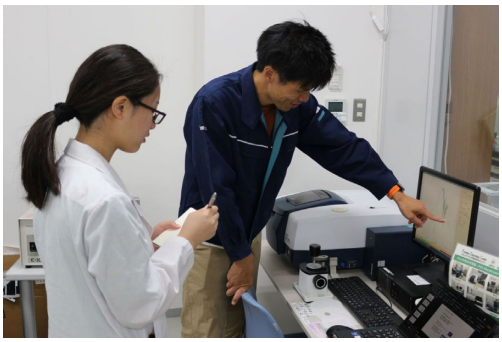
参加した学生からは、「今後の進路を選択するうえで、とても役立つ内容だった」「実際に体験し、慣れることの大切さを学んだ」などの感想が寄せられました。また、指導を担当した技術職員からも、「北海道大学の技術職員の業務を多くの学生に知ってもらうための、大変貴重な機会となった」との感想があり、学生、技術職員の双方にとって有意義なインターンシップとなりました。

技術連携統括本部では、今後もこのような取り組みを通じて、北海道大学の教育研究を支える技術職員の役割や仕事の魅力を広く発信するとともに、次世代を担う技術者の育成に貢献してまいります。

（技術連携統括本部）



海洋観測機器のメンテナンス及びチェック作業（低温科学研究所）



分析機器について説明を受ける様子（工学部）

瀬戸口理事一行が米UMass Amherstを訪問

8月24日（月）～27日（木）に、本学の戦略的国際パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校（UMass Amherst）を、瀬戸口剛理事・副学長、宮下和士教授（北方生物圏フィールド科学センター）、相沢智康副研究院長（先端生命科学研究院）、渡辺隆之准教授（工学研究院）、植村妙菜学術主任専門職（国際連携推進本部）が訪問しました。研究担当理事・副学長の同学訪問は今回が初めてです。両校が共同で出資している研究シードファンドを通じた多分野での研究交流の活性化、双方向技術職員研修等での連携の多角化が進む中、研究施設や研究インフラの活用による更なる協働の可能性を検討するため実施されました。

本学厚岸臨海実験所との交流を始めたグロースター・マリン・ステーションでは、北緯43度に位置する両地域の海洋環境・生態系の比較研究、地域漁業コミュニティの経済的な益に配慮しながらの研究教育活動、地域の初等中等教育への参画、共創によるステーション運営を目指していることを伺いました。

アマーストキャンパスでは、大学執行部との会談に加え、本学生命科学院修士課程を修了し現在UMass高分子工学科博士課程に在籍する学生と面会しました。また、農学、工学、情報・コンピュータサイエンスの研究者から、AIを活用した学際研究プロジェクトの紹介を受けました。さらに、相沢副研究院長が「核磁気共鳴分光法（NMR）のフードサイエンスへの貢献」と題した講演を行い、本学が採択された先端研究基盤刷新事業（EPOCH）で拡大が見込まれるNMR活用研究について紹介しました。講演会にはフードサイエンス学科だけではなく応用生命科学研究所からも参加があり、活発な質疑応答が行われました。

また、一行は札幌農学校初代教頭であったウィリアム・スミス・クラーク博士の墓参、農学校教授であったウィリアム・ブルックス博士が持ち帰ったハルニレの木、両校の景観設計・地域計画・園芸緑地学の研究者と学生が共同製作したクラーク記念ガーデンを見学しました。研究連携の更なる発展を目指すとともに、150年にわたる両校のつながりに改めて触れる機会となりました。

（国際連携推進本部）



高分子工学科長のアルフレッド・J・クロスビー教授らと（右から3人目）



マリン・ステーション訪問



相沢副研究院長の講演会



クラーク博士への献花

由仁町教育委員会と連携した環境学習の実施

サステイナビリティ推進機構は、由仁町教育委員会と連携し、由仁小学校及び由仁中学校で「総合的な学習の時間」の授業を実施しました。講師は、同機構の金井信宏特任准教授が務めました。

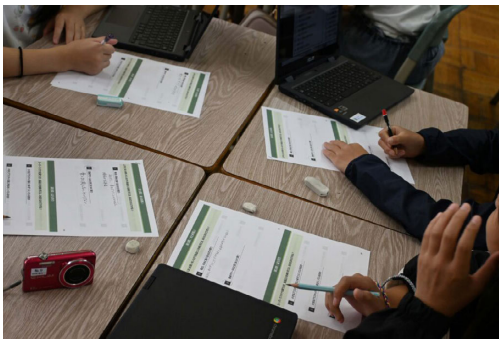
由仁小学校では、7月17日（金）に小学5年生を対象として「食品ロスと環境問題」をテーマとした授業を行いました。金井特任准教授は、SDGsやエシカル消費の考え方を交えながら、食品ロス削減の社会的意義について説明したほか、消費期限と賞味期限の違いや冷蔵庫の整理の工夫など、日常生活で実践できる取組を紹介しました。また、授業の後半では「目指せ、食のクイズ王！」と題したクイズ学習を通じて、食品ロスと温室効果ガス排出、水資源の消費などの環境問題との関わりについて理解を深めました。

由仁中学校では、9月8日（火）に中学1年生を対象として「わたしたちの河川のミライ～河川環境を守り、まちづくりへ活かすには～」をテーマとした授業を実施しました。河川が持つ治水、利水及び環境の機能や課題について、気候変動や生物多様性の観点から解説するとともに、河川を地域資源として活用する重要性を伝えました。授業後半のグループワーク「河川のミライ・アイデアバトル」では、生徒らに身近な由仁川や夕張川を題材に、河川環境の保全や地域活性化につながるアイデアについて意見を出し合い、活発な議論が行われました。

児童及び生徒は、食や河川を題材とした学習を通じて、環境問題を自分事として捉える視点を養うとともに、環境保全と持続可能な地域づくりの重要性について理解を深めました。

（サステイナビリティ推進機構）


「食品ロスと環境問題」をテーマに授業を行う金井特任准教授


「目指せ、食のクイズ王！」に取り組む児童


河川環境と地域づくりについて説明する金井特任准教授


「河川のミライ・アイデアバトル」に取り組む生徒

北海道マラソン連携プロジェクトにおけるSDGs農園での野菜収穫体験を実施

サステイナビリティ推進機構は、北海道マラソン組織委員会と連携し、令和6年度から「きたみてガーデンSDGs農園」（以下「SDGs農園」という。）プロジェクトを実施しています。令和8年度も本プロジェクトを継続実施しており、北海道マラソン2026に向けて活動を進めてきました。この度、8月27日（木）に近隣の保育園児を招き、SDGs農園において野菜の収穫体験を実施しました。

本プロジェクトでは、札幌キャンパスで回収した落葉から生成した腐葉土を活用し、総合博物館の中庭にSDGs農園を造成しています。SDGs農園の維持管理は、本学の教職員、北海道マラソン組織委員会及び学生主体のボランティアグループ「きたみてガーデン」が協力して行っており、キャンパス内における持続可能な資源循環の実践例として注目されています。

収穫体験では、「きたみてガーデン」の学生がサポートする中、園児たちがバジルやシソの収穫に取り組みました。収穫した野菜は園に持ち帰られ、食育活動の一環として活用されました。

また、北海道マラソン前日に開催されたランナー向け企画「カーボローディングパーティー」では、園児らが収穫したSDGs農園の野菜を活用した「北大バジルのトマトパスタ」や「北大赤シソ使用ドレッシングサラダ」などの料理が提供されました。参加者は「北大余市果樹園産ハスカップの甘酒」で乾杯し、本学ならではの食の魅力を楽しみました。

さらに、北海道マラソンの折り返し地点には、本学の木材を活用したエゾリスのモニュメントを設置しました。多くのランナーや観客が足を止めてモニュメントを撮影するなど、大会を盛り上げる取組の一つとなりました。

SDGs農園で収穫された野菜は、北海道マラソン関連企画で活用されるだけでなく、地域の子どもたちとの交流の創出にもつながっています。サステイナビリティ推進機構及び北海道マラソン組織委員会は、今後も連携を深めながらSDGs農園プロジェクトを継続し、地域と大学が協働する持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

（サステイナビリティ推進機構）



学生と園児らが収穫に取り組む様子



カーボローディングパーティーで提供された料理
（北大バジルのトマトパスタ等）



「北大余市果樹園産ハスカップの甘酒」で乾杯する様子



エゾリスのモニュメント

官学連携による「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を実施

サステイナビリティ推進機構は、札幌市、法政大学及び関西大学と連携し、8月25日（火）及び9月2日（水）～4日（金）に、「カーボンニュートラル夏季短期学習プログラム」を実施しました。3大学から23名の学生が参加し、講義、施設見学及びグループワークを通じて、カーボンニュートラルに関する理論と実践を学びました。

参加者は事前に、カーボンニュートラルの基礎学習動画を視聴し、地域における取組を調査しました。8月25日（火）のオンライン学習では、株式会社JERA及び関西電力株式会社から、地域ごとのエネルギー戦略について説明を受けました。

9月2日（水）からは札幌市内で対面学習を行いました。札幌市職員による脱炭素施策の講義に続き、札幌市円山動物園で太陽光発電、バイオマス熱利用、雪冷熱システムなどを見学しました。翌日は北海道電力株式会社苫東厚真発電所及び北海道ガス株式会社北ガス石狩発電所を訪問し、火力発電の役割や水素製造設備、LNG（液化天然ガス）及び風力発電について理解を深めました。

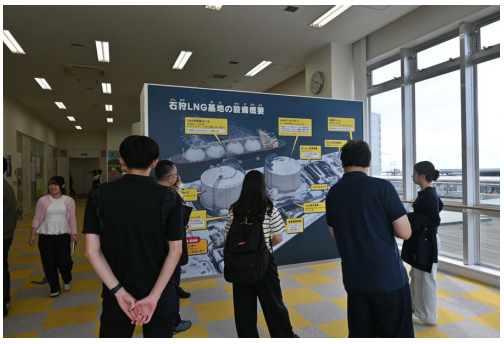
最終日は「日本の自治体単位で2050年カーボンニュートラルを達成する方法」をテーマに、5グループに分かれて検討しました。学生はSWOT分析などを用いて地域の特性や課題を整理し、施策の優先順位を考え、成果を発表しました。

本プログラムは、地域によって異なる課題を捉え、地域の実情に応じた政策を立案するプロセスについて実践的に学ぶ機会となりました。

（サステイナビリティ推進機構）


札幌市円山動物園でのバイオマス熱利用システム見学の様子


北海道電力株式会社苫東厚真発電所内の水素製造設備見学の様子


北海道ガス株式会社火力発電所見学の様子



参加者の集合写真

親子で学ぶ「北大研究林のサイエンス教室」を苫小牧研究林で開催

9月5日（土）、北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林等において、「MUFG SOUL（三菱UFJ信託銀行）presents 教科書を超えたリアルな自然へ！親子で学ぶ『北大研究林のサイエンス教室』」を開催し、事前に申し込みのあった親子6組12名が参加しました。

本企画は、三菱UFJ信託銀行株式会社及び農林中央金庫から社会貢献活動支援として寄附を受け、研究フィールドと産学連携による知見を活用し、森林の仕組みや、森林と暮らし及び社会との関わりを学ぶ機会を提供することを目的に実施したものです。

はじめに、北海道森林組合連合会の宮　愛香氏と加藤由綺奈氏が、クイズを交えながら森林組合連合会の役割や林業による生態系保全、木材の利用について説明しました。続いて、中村誠宏苫小牧研究林長・北方生物圏フィールド科学センター教授が、地球温暖化と森林のつながりについて講義しました。

午後は、森林資料館で研究林の地形や土壌、木材標本、動植物の剝製を見学した後、二次林で毎木調査を体験しました。参加者は、幹や葉の特徴から樹種を特定して胸高直径を測定し、過去の調査データとの比較を通じて、樹木の成長や二酸化炭素を固定する仕組みを学びました。その後、炭火で熱した鉄ごてを使い、コースターに焼き印を押す木工体験を行いました。

参加者からは、「森林について詳しく知ることができた」「生き物や自然の大切さについて考える機会になった」などの感想が寄せられました。また、保護者からも、実際の森林を舞台とした体験型学習の意義を評価する声が寄せられました。本企画は、森林を身近に感じながら自然と社会とのつながりを学び、環境問題を考えるきっかけとなる有意義な機会となりました。

（サステイナビリティ推進機構）


北海道森林組合連合会による講義


森林資料館での見学


毎木調査による胸高直径測定


参加者らの集合写真

「国民との科学・技術対話」支援事業 今年度は24名の研究者が参加

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、"ACADEMIC FANTASISTA（アカデミックファンタジスタ）"。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」事業の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。今年度は、24名の研究者が参加しています。

（広報・社会連携本部）



8月25日（火）の北海道新聞朝刊に掲載された今年度のキックオフ広告をもとに作成したポスター

参加研究者（順不同）

蔦　清行（文学研究院 教授）　「古典を疑え！昔の日本語のさがし方」
永木愛一郎（理学研究院 教授）　「『流れ』にのって化学を変える」
石垣侑祐（理学研究院 准教授）　「教科書のその先へ～有機化学の未踏領域に挑む～」
龍﨑　奏（理学研究院 准教授）　「がんを知って未来を切り開く」
渡慶次学（工学研究院 教授）　「マイクロ流体デバイスの可能性：身近な分析からワクチン製造まで」
佐藤博隆（工学研究院 准教授）　「量子ビームで古今東西の不可視世界を覗く」
白井直機（工学研究院 准教授）　「身近なプラズマと未来の環境技術」
多田昌平（工学研究院 准教授）　「二酸化炭素を資源に変える化学」
岩井　愛（工学研究院 助教）　「目では見えない表面の化学」
小西隆之（メディア・コミュニケーション研究院 准教授）
「流行曲を通して解明する近年の日本語における英語リズムの影響」
青島圭佑（獣医学研究院 講師）　「動物と人、比べて探るがんの本質」
今内　覚（獣医学研究院 教授）　「新薬開発で動物も病気から救える時代に」
長山雅晴（電子科学研究所 附属社会創造数学研究センター 教授）「漸化式を使って様々な現象を数式にしてみよう」
木村勇気（低温科学研究所 教授）　「顕微鏡でみる、ミクロな水中の世界」
加藤隆弘（医学研究院 教授）　「思春期の心身の不調への対応～不登校・ひきこもり・摂食症～」
工藤與亮（医学研究院 教授）　「人工知能と先端半導体で未来の医療を実現する」
水谷龍明（医学研究院 講師）　「感染症研究から見えてきた『がんの免疫抑制システム』」
山口健史（環境健康科学研究教育センター 特任准教授）「小児科医が挑む、子どもの未来の健康を考える研究」
山内太郎（保健科学研究院 教授）　「トイレから考える地球の未来：地域とともにつくるサニテーション」
志沢陽子（保健科学研究院 特任教授）「データサイエンスでより良い医療を」
南　雅文（薬学研究院 教授）　「快と不快の脳科学」
佐藤淳子（教育イノベーション機構 准教授）「日本語の『当たり前』を科学する～ことばが映し出す世界～」
加藤博文（アイヌ・先住民研究センター 教授）「文化的多様性とアイヌ歴史文化遺産」
ゴンザレズ　ガブリエル（総合イノベーション創発機構 ワクチン研究開発拠点 特任准教授）
「ワクチン・治療法開発におけるバイオインフォマティクスとAIの活用」

本学の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」でも、講義レポート等を随時更新しています。ぜひご覧ください。

リサーチタイムズ　https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/

リサーチタイムズ

公共政策大学院が「被災者支援」をテーマに「HOPS地方議員・地方公務員向けサマースクール」を開催

公共政策大学院では社会連携の一環として、平成20年度から「HOPS地方議員・地方公務員向けサマースクール」を開催しています。第一線で活躍する道内外の有識者の講演、専任教員が参画するグループワークでの政策討議が特長で、今年度は8月22日（土）・23日（日）に「災害対応を被災者支援の視点から考える」と題し、道内外から60名の参加者を迎え開催しました。

1日目は、岩谷　將院長による開講挨拶に始まり、今井太志教授が被災者支援制度の全体像について説明しました。続いて、富士フイルムシステムサービス株式会社主任研究員の渡邉雄太氏に、「災害時の地方税制と罹災証明書の仕組み」について解説いただきました。渡邉氏は、令和8年熊本地震、令和8年8月千葉豪雨への対応の中、ご協力いただきました。

次に、厚生労働省の前災害等危機管理対策室長であり、石川県出向中に能登半島地震復旧・復興推進部長を務めた土岐祥蔵氏に、国と県の最前線で災害対応に当たった経験について講演いただきました。

最後に、「被災者生活再建カード」を使い、10グループによるグループワークを実施しました。各グループでは本学の教員の他、弁護士や消防士、北海道や札幌市の危機対策担当職員等が進行役となり、深い思考、活発な議論を促しました。

2日目は、須田俊孝教授から、厚生労働省在職時に現地責任者として担振東部地震、能登半島地震の際に現地入りした経験を踏まえ、進行する高齢化社会において、災害時に医療と福祉の関係者に求められる役割の大きさについて講演がありました。

続いて、災害中間支援組織「北の国災害サポートチーム」代表、一般社団法人Wellbe Design理事長の篠原辰二氏に、近年の災害対応において様々な民間団体をつないでいる災害中間支援組織について講演いただきました。

最後に、2日間を振り返るグループワークを行い、密度の濃い研修を終えました。

受講者は、被災者支援についても自治体として事前準備が重要であること、実際に被災した際、現在では国や他自治体、様々な民間団体による相当の支援があること、地域の災害対応力・受援力向上の必要性について理解を深めました。

今後も受講者の方々が最新の知見に触れつつ、互いに親密なネットワークを形成する契機となるよう改善を重ねながら本研修の実施を継続し、地域の活性化・振興に取り組んでまいります。

（公共政策学教育部・公共政策学連携研究部）



グループワークの様子



参加者集合写真

医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、9月29日（火）に、学術交流会館講堂において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法医解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された560名の御霊の御冥福をお祈りするため、慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、御遺族、野口　伸理事・副学長、田中伸哉医学部長、飯村忠浩歯学部長、本間明宏北海道大学病院副病院長、石津明洋保健科学研究院長、学外関係者、教職員、学生等約390名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者全員による黙祷を行い、次いで、田中医学部長及び飯村歯学部長から、御霊の御意志に報いるためにも一層の教育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞がありました。その後、参列者による献花を行い、最後に飯村歯学部長から謝辞があり、慰霊式は厳粛のうちに終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部、
歯学院・歯学研究院・歯学部）



追悼の辞を述べる田中医学部長



追悼の辞を述べる飯村歯学部長



献花をする野口理事・副学長



謝辞を述べる飯村歯学部長（右）及び田中医学部長（左）

医学研究院が動物慰霊式を挙行

医学研究院附属動物実験施設では、9月18日（金）、医学部学友会館フラテホールにて、令和8年度動物慰霊式を執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に受け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、100名以上の教職員、学生等が参列しました。

はじめに吉川雄朗施設長が追悼の辞を述べた後、田中伸哉研究院長の挨拶、参列者全員による黙祷・献花を行いました。最後に吉川施設長から、適正な動物実験の実施について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



追悼の辞を述べる吉川施設長



田中研究院長による挨拶



参列者による献花

医学研究院ヘルスケアAIXイノベーションセンターが第5回北海道大学医療AIシンポジウムを開催

8月9日（日）、医学部学友会館「フラテ」にて、医学研究院ヘルスケアAIXイノベーションセンター（HAIXIC）主催による「第5回北海道大学医療AIシンポジウム」をハイブリッド形式で開催しました。本シンポジウムは、国内外の研究者による最先端の医療AI研究成果を発信し、産学連携や国際的な視野の拡大、共同研究の促進、さらに若手研究者のキャリア形成に資することを目的に2022年から毎年開催しており、本年で第5回を迎えました。

今回は「Large Language Model（大規模言語モデル）」「AI for Life Science（ライフサイエンス分野におけるAI）」「Imaging AI（画像AI）」の3セッションを設け、日本語臨床記録を用いたLLMの診断支援や信頼できる多言語医療LLMの構築、量子コンピューティングや機械学習を活用した創薬・触媒探索、神経放射線や乳房MRIにおける画像AIの臨床実装など、基盤技術から臨床応用まで幅広いテーマが取り上げられました。モデルの精度のみならず、データの質、臨床評価、ワークフロー、教育、規制対応、患者安全まで踏み込んだ議論が交わされたことも今回の特色です。さらに、キヤノンメディカルシステムズ株式会社によるランチョンセミナー、富士フイルムメディカル株式会社によるイブニングセミナーも行われました。

開会にあたり、寳金清博総長、田中伸哉医学研究院長、工藤與亮教授（医学研究院画像診断学教室/HAIXICセンター長）から挨拶があり、閉会の辞は南須原康行北海道大学病院長が務めました。

当日は、日本、中国、米国、タイ、インドネシア、バングラデシュ、インド、フランス、ドイツ、オーストラリアの10か国から、現地63名、オンライン114名（うち海外23名）、計177名にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。画像診断学教室に在籍する海外出身のメンバーも参加し、国際交流の輪がさらに広がりました。終了後のレセプションでは、講演者と参加者が国や所属を越えて交流し、講演では尽くせなかった議論や今後の研究協力について活発に意見が交わされました。

今後もHAIXICは、国際的な研究交流を推進し、北海道大学全体の研究力強化に寄与するイベントを積極的に開催してまいります。学部生・大学院生・教職員をはじめ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

また、HAIXICでは医療AI開発者養成プログラム（CLAP）を提供しています。ご関心のある方はぜひウェブサイトをご覧ください。

https://ai.med.hokudai.ac.jp/clap/

（医学研究院）



医療AIシンポジウムポスター


集合写真

農学部・農学院・農学研究院において「留学生見学旅行」を開催

農学部・農学院・農学研究院では、9月8日（火）に「留学生見学旅行」を実施しました。この見学旅行は、留学生同士の交流を深めるとともに、北海道の産業や文化への理解を促進することを目的として、約40年にわたり継続して開催されています。

今年度は、留学生9名、教職員4名に加え、交流をサポートする日本人学生3名が参加しました。午前中はニセコ町のLUPICIA BREWERYを訪問し、クラフトビールの製造工程や地域資源を活用した商品づくりについて説明を受けました。午後は余市町へ移動し、本学北方生物圏フィールド科学センター余市果樹園を見学しました。果樹園では、果実の利用目的による「Farm Fruit」と「Orchard Fruit」の違いについて学ぶとともに、あいにくの天候ではありましたが、りんごの収穫体験も行いました。

参加者は、見学や体験活動を通じて北海道ならではの自然環境や農業・食品産業への理解を深めるとともに、国籍や研究分野を超えた交流を楽しみました。本見学旅行は、参加者にとって北海道の魅力を再発見するとともに、新たな交流の輪を広げる有意義な機会となりました。

（農学部・農学院・農学研究院）



LUPICIA BREWERYでの集合写真


LUPICIA BREWERYでの見学の様子



余市果樹園での集合写真


余市果樹園での見学の様子

国際広報メディア・観光学院　韓国にて留学相談会を実施

国際広報メディア・観光学院は、9月6日（日）、ソウル市内のコンベンションホールにて留学相談会を開催しました。今回は、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施し、約21名（対面6名、オンライン約15名）が参加しました。このほか、修了生1名と在学生1名も対面で参加しました。

奥　聡学院長の挨拶に続き、学院の紹介、入学試験の概要、大学院生としての学修システム、研究生制度及び書類審査による応募の概要、研究生としての学修、研究計画書作成のポイントなど、留学希望者に必要な情報が提供されました。全体説明の後には、留学を検討している参加者を対象とした相談会が行われ、質疑応答の時間が設けられました。求められる語学力のレベル、応募に向けて必要な準備、修了後の主な進路、本学の学習環境などについて、活発な意見交換が行われました。修了生・在学生も、自身の体験をもとに、具体的な説明や助言を行いました。とりわけ対面参加の学生からは、自身の問題関心と学院での研究との整合性など、留学を見据えた具体的な相談が多く寄せられました。

説明会後に実施した参加者アンケートでは、回答者全員が説明会を高く評価しました。具体的には、「小規模で相談しやすかった」「研究計画書の作成について詳しく知ることができた」「様々な先生方や在学中の先輩がいたので、多様な質問ができた」「ホームページには掲載されていない情報を得ることができた」などの感想が寄せられました。一方で、「1対1で相談できる時間」や「具体的な研究内容や関連分野について質問・議論できる時間」をより長くしてほしいとの意見もありました。これらを踏まえ、次回以降の相談会で改善を図っていきたいと思います。

相談会全体を通じて、参加者の北大留学に対する熱意と関心の高さを強く感じました。質疑応答の時間には、参加者から熱意あふれる質問が途切れることなく寄せられました。釜山から電車で2時間半かけて参加した学生もいたほか、ソウルで活躍する卒業生も参加しました。現地に赴いて相談会を開催することの重要性を、改めて実感する機会となりました。また、対面では韓国各地の国立・私立大学から、オンラインでは韓国のほか、中国、台湾、日本からも参加があり、学院への関心の広がりがうかがえました。今後も、対面とオンラインそれぞれの強みを生かしながら、様々な地域での相談会開催を試みていきます。また、現地開催ならではの出会いを大切にし、地域ごとの同窓会の組織化についても前向きに検討してまいります。

（国際広報メディア・観光学院）



相談会の様子

低温科学研究所が「2026年度 未来の女性研究者のための最先端研究体験プログラム」を実施

低温科学研究所では、令和6年度に部局評価配分事業「各部局の強み・特色に対する評価」において、「若手・女性研究者獲得に向けた最先端かつ学際的な研究体験プログラムの提供」が採択され、令和7年9月に、大学院進学を検討している全国の女子学生（学部3・4年生）を対象とした「未来の女性研究者のための最先端研究体験プログラム」を実施してきました。

今年度も、引き続き同事業の一環として、「2026年度　未来の女性研究者のための最先端研究体験プログラム」を実施し、大学院進学を検討している全国の女子学生（学部3・4年生）を対象として、本研究所における一週間程度の研究実地体験を実施しました。

本プログラムでは、本研究所の世界をリードする研究の現場で、実験・実習を通して最先端の学際的研究を体験してもらうことを目的としています。8月31日（月）～9月4日（金）の日程で、「極地氷床アイスコアから読み解く古環境復元」をテーマに募集を行い、全国の大学から学部3年生の女子学生5名が参加し、本研究所の共同利用施設である-50℃の低温実験室において、アイスコアの解析を体験しました。

参加者の所属学科は化学、生物、地球科学など多岐にわたるため、初日には研究テーマに関する学際的な基礎知識の習得を目的とし、担当教員が講義を行いました。2日目から最終日までの3日間は実習にあてられ、大学院生4名がメンターとなり、9時から16時まで（小休憩を挟む）ほぼ低温実験室内でアイスコアの解析を行いました。最終日の後半には、得られた実験結果の発表と、それに基づく考察を行いました。

参加者は熱心にプログラムに取り組み、最終日のギリギリまで低温実験室での作業を満喫し、プログラムは盛況のうちに終了しました。

参加者からは、「新しい知識や視点を得ることができた」「研究への興味が深まった」「北海道大学大学院への進学を検討したいと思った」「最先端の研究を体験できたので、とても充実した4日間だった」「他大学の自分と同じ分野に興味を持つ学生と交流する機会を持てたことも、とても良かった」「研究とはどのようなものなのか、プログラム参加前よりも具体的に理解することができ、研究の楽しさを実感したことで、大学院進学への意欲がより高まった」など、多くの前向きな感想が寄せられました。

本プログラムは、次世代の女性研究者の育成に向けた取り組みとして非常に意義深いものであり、参加者にとっても貴重な学びと刺激のある体験となりました。本研究所は、引き続きこうした機会を提供し、女性研究者の裾野を広げるとともに、多様な視点を持つ人材の育成を進めてまいります。

（低温科学研究所）



メンターの大学院生から説明を受けるプログラム参加者



低温科学研究所の大型低温実験室で作業するプログラム参加者

国際シンポジウム「第14回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を合同開催

9月4日（金）に国際シンポジウム「第14回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議」を、人獣共通感染症国際共同研究所（以下「IIZC」という。）と総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点（以下「IVReD」という。）の共催により、IIZCで開催しました。

はじめに、寶金清博総長による開会の辞、石塚真由美理事・副学長の歓迎の挨拶に続き、IIZC国際協働ユニット（GI-CoRE協力拠点）及びIVReDの拠点長である澤　洋文卓越教授による挨拶がありました。続いて、平成26年に人獣共通感染症克服のためのコンソーシアムを設立し、第一線でIIZCと海外連携大学との国際連携研究と教育を推進した喜田　宏ユニバーシティプロフェッサーの基調講演が行われました。講演では、パンデミックインフルエンザ、季節性インフルエンザ、鳥インフルエンザの診断、予防、治療と防遏には、人・動物・環境を一体として捉えるワンヘルス・アプローチが不可欠であること、また、医学、獣医学、公衆衛生、農学、環境分野が連携し、監視体制の強化、情報共有、感染予防対策を総合的に進めることで、新興感染症の発生や拡大を早期に防ぎ、人と動物の健康、さらには社会・経済への影響を最小限に抑えることの重要性が紹介されました。

その後、インフルエンザとCOVID-19に対するワクチンと宿主反応、細菌感染症、ウイルス感染症、病原体のゲノム分析の四つのセッションで、世界の第一線で活躍するメルボルン大学のキャサリン・ケジェルスカ教授とエリザベス・ハートランド教授、アイルランド国立大学ダブリン校のスティーブン・ゴードン教授、アブドラ国王科学技術大学のアーナブ・ペイン教授、マウントサイナイ医科大学/ウィーン医科大学イグナッツ・ゼンメルワイス研究所のフロリアン・クラマー教授の5名の海外連携大学の研究者、及びIIZCからは中島千絵教授、山岸潤也教授、松野啓太教授及び大野円実助教が、人獣共通感染症の最先端研究の進捗状況と研究成果について発表しました。

本シンポジウムには、海外大学からGI-CoRE・IVReD連携教員が参加し、IIZC、獣医学研究院、IVReD、One Healthリサーチセンター等の研究者と国際感染症学院の学生を合わせ、125名（うち外国人76名）が参加しました。いずれの発表でも活発な質疑応答と議論が交わされ、髙田礼人IIZC所長の閉会の辞をもちまして盛会のうちに終了しました。なお、本シンポジウムは国際感染症学院の大学院生を対象とした特別授業としても公開され、大学院生75名の参加がありました。IIZC国際協働ユニットのGI-CoRE協力拠点としての認定は、令和8年度で終了しますが、今後も海外大学その連携によるさらなる推進が期待されます。

（人獣共通感染症国際共同研究所、総合イノベーション創発機構ワクチン研究開発拠点）



集合写真



寶金総長の開会の御挨拶



喜田ユニバーシティプロフェッサーの基調講演



シンポジウムの様子

スラブ・ユーラシア研究センターがサマースクールを開催

スラブ・ユーラシア研究センターは、8月27日（木）・28日（金）に、JCREES（日本ロシア・東欧研究連絡協議会）との共催で、「スラブ・ユーラシア研究サマースクール」を開催しました。JCREESとは、ロシア・東欧学会、日本ロシア文学会、ロシア史研究会、比較経済体制学会、日本スラヴ学研究会によって構成されるコンソーシアムで、設立以来、本センターが事務局を担当しています。このサマースクールは、令和3年にロシア・東欧学会との共催で組織したことに端を発し、その精神を引き継いだJCREESとの共催は本年5回目、本センターとしては通算6回目の開催となりました。

本年度のサマースクールには、日本全国各地の大学から24名の応募があり、選考の結果、17名の学生（学部3〜4年生8名、修士課程5名、博士課程4名）が採択されました（ただしうち1名は事情により辞退）。サマースクールは例年通り2部構成で、午前中はJCREES所属の各学会から派遣された講師6名による講義、午後は学生発表となりました。午前中の講義では、プーチン体制の統治技法（ロシア・東欧学会）、ハンガリー現代政治経済（比較経済体制学会）、境界領域としてのビャウォヴィエジャ（ロシア文学会）、ソヴィエト宮殿をめぐる建築（日本スラヴ学研究会）、スターリン権力の表層（ロシア史研究会）、及びスターリン体制下での強制追放（本センター）をそれぞれテーマとしたものが実施され、講義後の討論には、参加学生が積極的に質問やコメントを提起しました。午後の学生研究発表も大変充実したものとなり、講師や学生による質疑応答では熱気に満ち溢れた討論が展開されました。

本サマースクールの目的は、学生が自身の専門分野への理解を深めるとともに、分野や地域を超えた様々な広がりに目を向けて研究に対する視野を広げ、積極的に意見交換することで学際的な展開の重要性を実感することにあります。講義や発表後の質疑応答及び休憩時間においても活発な意見交換が行われ、参加者が分野を超えて交流する様子が見られました。

参加学生や講師の一部は、自由時間を利用して、本学が所蔵するスラブ・ユーラシア研究に関わる蔵書類の調査や資料収集を行ったほか、担当講師ではないセンター教員に論文・進学指導を求めて滞在を延長するなど、サマースクールの機会を活用していました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）


講義の様子

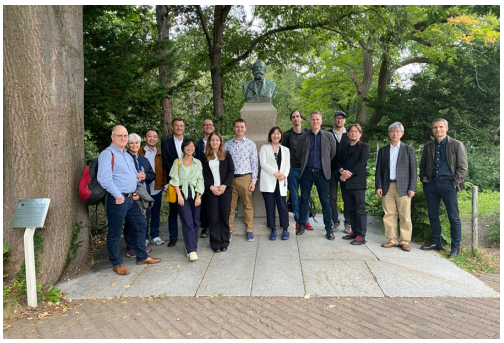

サマースクール集合写真

共同利用・共同研究拠点プロジェクト型国際ワークショップ「技術信奉と経済成長の統制 1955-1991」を開催

文部科学省が平成21年より共同利用・共同研究拠点として認定しているスラブ・ユーラシア研究センターは、従来国内の研究者コミュニティ向けに実施していた公募研究を2年前から海外にも開き、共同研究の国際化と地平の拡大を図ってきました。その最大規模の成果として、9月15日（火）・16日（水）に、冷戦期の社会主義圏（東欧、ソ連、中国）における技術信奉とそれがもたらす諸問題を議論するワークショップを対面とオンラインの併用で開催しました。報告者は、ハイデルベルク大学（ドイツ）とリュブリャナ現代史研究所（スロヴェニア）の研究者グループを中心に、国際公募で報告者を募り、対面で16名、オンラインで5名が海外から参加しました。本センターからは、司会の他、教員1名、大学院生1名が報告しました。共同利用・共同研究拠点の経費と海外の研究グループとのマッチングファンド形式の国際会議の組織は、本センターの活動で今後、重要な位置を占めることが期待されます。

2日間に7セッションが朝から夕方まで展開され、議論も多岐にわたりました。技術革新が計画経済と共産党体制にもたらした光と影、原子力、サイバネティクス、宇宙開発をめぐる東西陣営にまたがる競争と相互参照、科学技術を駆使する自然改造への過信、環境破壊に対する科学の知見と応用をめぐる論争などが議論されました。各セッションには対面とオンラインを合わせて25名ほどが参加し、2日間で延べ188人（うち海外から107人）の参加がありました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



クラーク博士像の前で



第2セッションの様子



2日間のワークショップを終えて

遺伝子病制御研究所が動物慰霊式を挙行

9月10日（木）、遺伝子病制御研究所において、昨年4月からの約1年間に学術研究の礎として実験に供せられた動物の御霊を慰霊するため、動物慰霊式を執り行いました。

今年度も昨年度と同様、挨拶をメール配信にて行い、献花を各自行っていただく形式で執り行いました。献花には研究所教職員、大学院生等の関係者が参列しました。

また、配信された挨拶では、茂木文夫所長から、現代の生命科学や医学のめざましい進歩は、多くの実験動物の命を犠牲にしながら積み重ねられてきた研究の成果によって支えられてきたこと、生命の尊さを常に考え、動物福祉に一層配慮した研究態勢を考えていくことを願う旨の挨拶がありました。

清野研一郎動物実験施設長からは、動物の命へ感謝を述べる旨の挨拶がありました。

この動物慰霊式を通して、参列者全員が生命の尊厳、倫理観について改めて認識し、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（遺伝子病制御研究所）



献花を行う茂木所長



献花を行う清野施設長

「広域複合災害研究センターと厚真町との連携協力協定　締結式」を開催

広域複合災害研究センターでは、8月31日（月）に厚真町総合福祉センターにおいて、厚真町との連携協力協定締結式を行いました。

近年、日本では豪雨や地震等による災害が頻発しており、様々な現象が連鎖・複合して広域に影響を及ぼす広域複合災害が多く発生する傾向にあります。平成28年には北海道に四つの台風が襲来し、十勝地方を中心に大きな被害が生じました。また、平成30年9月6日（木）に発生した北海道胆振東部地震は、厚真町において最大震度7を観測するとともに大規模な土砂災害が発生し、大きな被害をもたらしました。

さらに、将来発生するおそれのある災害として、北海道最大の脅威の一つである日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震では北海道太平洋沿岸における甚大な被害が想定されています。厚真町においても、地震動による被害のほか、太平洋沿岸部を中心に津波浸水や地震動による被害が生じることが想定されています。

厚真町は、北海道胆振東部地震以降、復旧・復興に取り組んで来られました。そのような中、令和元年度には本センターと厚真町との共催で防災シンポジウムを開催し、災害メカニズムや防災対策について地域住民への啓発活動を実施しました。その後も、本センターでは厚真町内における地震後の土砂移動の状況に関する調査研究等を継続しています。さらに、昨年度は職員の方に本センターが実施するリカレント教育プログラムにご参加いただいたほか、防災対策や復旧復興に関する意見交換を重ねてまいりました。

本センターは、この度締結した連携協力協定を契機とし、地域との連携強化を図り、自治体のニーズを踏まえた研究を相互に協力して推進してまいります。さらに、将来的には防災関連計画等の策定や改訂に貢献し、地域の防災力向上を推進したいと考えております。今後も、大規模災害時の被害軽減に向けた取り組みを強化してまいります。

（広域複合災害研究センター）



署名後に協定書を持つ宮坂尚市朗町長（左）と
佐々木貴信センター長（右）

博士学位記授与

大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士103人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格した論文博士4人に対する学位記授与式を、9月25日（金）に学術交流会館において挙行しました。

式では寶金清博総長から各研究科等の総代へ学位記が手渡され、最後は北大交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）



寶金総長と学位被授与者の集合写真

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（水産科学）	藤田（ふじた） 一世（いっせい）	沖合底曳網漁業におけるイカナゴ類（*Ammodytes* spp.）の漁獲と行動生態に関する研究 主査：教授　向井　徹
	董（ドウ） 安然（アンゼン）	Annual and spatial variation in the diet of juvenile Pacific cod in Mutsu Bay, Japan （陸奥湾におけるマダラ稚魚の食性の年および空間変動） 主査：教授　工藤　秀明
	SAKALA（サカラ） Masautso（マサウソ） Emmanuel（イマニュエル）	Studies on the Chemotherapeutic Control of Ectoparasitic Diseases in Aquaculture （水産養殖における外部寄生虫症の薬剤防除に関する研究） 主査：教授　井上　晶
	勝又（かつまた） 義友（よしとも）	サケ科魚ヘルペスウイルス病の病態解明と防疫技術基盤の構築に関する研究 主査：教授　井上　晶
博士（環境科学）	NGWIRA（ングウィラ） Susan（スーザン）	Direct and indirect drivers of streamflow variability: An integrated structural assessment of the Mukawa River Basin, Hokkaido, Japan （河川流量変動の直接的および間接的な要因：北海道、鵡川流域における統合的構造評価） 主査：准教授　早川　裕一
	OSEI-ESSAH（オセイエッサ） Nadine（ナディーン）	Atmospheric methane trends in Ghana: A satellite-based characterisation in a cloud-prone tropical environment （ガーナにおける大気メタンの変動：多雲熱帯域における衛星観測に基づく解析） 主査：准教授　早川　裕一
	CRUZ（クルース） PERAZA（ペラサ） Erica（エリカ） Irinia（イリニア）	A scenario-controlled life cycle assessment of road expansion under data constraints: a case study in El Salvador （データ制約下における道路拡幅事業のシナリオ制御型ライフサイクル評価：エルサルバドルを事例として） 主査：教授　沖野　龍文
	PANDEY（パンデイ） Sudip（スディップ）	Probable maximum precipitation estimation using explainable machine learning: Implications for hydroclimatic disaster management in Nepal （説明可能な機械学習を用いた最大可能降水量の推定：ネパールにおける水文気候災害管理への示唆） 主査：准教授　RAM AVTAR

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（環境科学）	PANDEY Santosh Kumar（パンデー サントシュ クマール）	Assessment of soil erosion risks, riverbank migration and its impact on the riverine communities in the upper Ghaghara river basin, India （インド・上部ガーグラ川流域における土壌侵食リスク、河岸移動および河川沿岸コミュニティへの影響評価） 主査：准教授　RAM AVTAR
	廖　海翔（リュウ カイショウ）	Site-specific variation in flowering phenology of a spring ephemeral herb, *Corydalis ambigua*, and implications for population maintenance under seed set variation （春植物エゾエンゴサクにおける開花フェノロジーの地域間変異、ならびに結実変動が個体群維持に及ぼす影響について） 主査：特任准教授　工藤　岳
	王　雪瑩（オウ セツエイ）	Flexibility of the gut microbiome in giant pandas: insights from captive populations in Japan （ジャイアントパンダの腸内マイクロバイオームの柔軟性：日本の飼育集団からの知見） 主査：教授　越川　滋行
	西島　明日香（にしじま あすか）	Transcriptomic changes in peripheral blood across reproductive stages in female brown bears and polar bears （メスのヒグマとホッキョクグマにおける繁殖段階に伴う末梢血でのトランスクリプトーム変化） 主査：教授　越川　滋行
	萩之内　竹斗（はぎのうち たけと）	Studies on the effects of early-life nutrition on growth, physiological functions, and tissue development in Japanese Black cattle （黒毛和牛における発育初期栄養が成長、生理機能および組織発達に及ぼす影響に関する研究） 主査：教授　後藤　貴文
	王　詩雨（オウ シウ）	Development of N-terminal immobilization of proteins onto polymer materials via triazolecarbaldehyde reagents （トリアゾールカルボアルデヒド試薬を用いてポリマー材料へタンパク質をN末端固定化する技術の開発） 主査：教授　小野田　晃
	WITONO Aditya Irfan（ウィトノ アディティア イーファン）	Development of metal-organic frameworks for the removal of nitrate anions from water via anion exchange and photocatalytic reduction （アニオン交換および光触媒還元による水中硝酸アニオン除去を目的とした金属有機構造体の開発） 主査：教授　野呂　真一郎
	MIAO Lingke（ミャオ リンケ）	Ammonia production via methane-promoted nitrate reduction in water toward a sustainable nitrogen cycle （持続可能な窒素循環に向けたメタン促進硝酸イオン還元によるアンモニアの生産） 主査：教授　神谷　裕一
	周　海超（シュウ カイチョウ）	Zero-dimensional organic–inorganic indium bromide crystal growth and modification for tunable photoluminescence properties （光ルミネセンス特性を調整するためのゼロ次元有機無機臭化インジウム結晶の成長と改質） 主査：教授　Biju Vasudevan Pillai
博士（理学）	青柳　治叡（あおやぎ ちあき）	Reconstruction of paleoenvironmental changes by biomarker analysis of sediment cores in the Japan Sea off Hokkaido over the past 4 million years （日本海北海道沖の堆積物コアのバイオマーカー分析による過去400万年間の古環境変動の復元） 主査：教授　沢田　健
	ABIR Mohammed Galib Hasan（アビル モハメド ガリブ ハサン）	Responsible Adoption of Generative Artificial Intelligence in Japanese Higher Education: Linking Institutional Governance, Student Acceptance, and AI Literacy Education （日本の高等教育における生成型人工知能の責任ある導入：組織ガバナンス、学生の受容、およびAIリテラシー教育の連携） 主査：教授　重田　勝介
	曹　泽涛（カオ ジータオ）	Wildfire-driven Evolution of Permafrost in Northwest Canada Boreal Environments Revealed by InSAR and Field Observations （北西カナダにおける森林火災による永久凍土の進化：InSARと現地調査による解明） 主査：教授　古屋　正人

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（理学）	ショーン Shaun クリストファー Christopher カニングハム Cunningham	Diversity, toxicity, and ecology of harmful benthic dinoflagellates in Japan （日本における有害底生性渦鞭毛藻の多様性、毒性および生態） 主査：特任教授　小亀　一弘
	すがわら　くにやす 菅原　邦泰	Evaluation of possible climate change effects for blowing snow and investigation about the relationship between snow surface structure and drifting snow initiation （気候変動による吹雪強度への影響可能性の評価と雪表面構造と地吹雪発生の関係の解明） 主査：教授　稲津　將
博士（農学）	カイイス Kayyis ムアヤダ Muayadah ルバ Lubba	Importance of the *OsGELP* gene family in high-latitude adaptation and booting-stage cold tolerance in rice （イネ品種の高緯度適応と穂ばらみ期耐冷性における*OsGELP*遺伝子ファミリーの重要性） 主査：教授　小出　陽平
	ヨアン フェラニ Yoan Felanny レンボノ Lembono	Impact of low humidity on suppressing stem-end rot in avocado during ripening （アボカド追熟時の低湿度処理が茎端部腐敗に及ぼす影響） 主査：准教授　小山　健斗
	リカ RIKA ザヘラ ZAHERA	Study on feeding approaches targeting the gastrointestinal environment to improve cattle production （ウシの生産性向上のための消化管環境を標的とした飼料給与アプローチに関する研究） 主査：教授　小池　聡
	ワン WANG ゼピン ZEPING	Study on stereo stability and application of phenylglycine in peptide synthesis （フェニルグリシンの立体安定性並びにペプチド合成への応用に関する研究） 主査：教授　橋本　誠
	あべ　はるか 阿部　悠	発色剤無添加の乾塩漬食肉製品における亜鉛プロトポルフィリンIX の形成機構に関する研究 主査：教授　若松　純一
	サフィナ スリヤ Safinah Surya ハキム Hakim	Meta-analytical Approaches to Understand Fungal Community in Mangrove Ecosystems （マングローブ生態系における菌類群集の理解に向けたメタ解析的アプローチ） 主査：教授　玉井　裕
	スベディ ビサル SUBEDI Bishal	Effects of tillage, cover cropping, and fertilizer management on nitrogen dynamics in upland soybean field of Hokkaido, Japan （耕起、カバークロップ、および施肥管理が北海道の畑地における窒素動態に及ぼす影響） 主査：教授　当真　要
	ツェン TSENG, ウェンユ WEN-YU	Evaluating carbon dynamics and soil health responses to early no-till cover crop integration in a soybean system in Hokkaido, Japan （北海道地域のダイズ栽培への不耕起・被覆作物導入初期における炭素動態および土壌健全性の評価） 主査：教授　当真　要
博士（生命科学）	アオヤ 奥　亜	Evolutionary Conservation, Functional Divergence, and Structural Basis of Estrogen Receptors in Elephant Shark （*Callorhinchus milii*） （ゾウギンザメ（*Callorhinchus milii*）エストロゲン受容体における進化的保存性、機能的分化および構造基盤の解析） 主査：教授　勝　義直
	ゴ タン フ 呉 清 富	Plasmodesmata Density and Structure in the Bryophyte *Physcomitrium patens*: A Study on Cell Wall Polysaccharides （コケ植物 *Physcomitrium patens* における原形質連絡の密度および構造の解析：細胞壁多糖類の機能的役割） 主査：教授　藤田　知道
	バルバルア BARBARUAH バイバフラジ Baibhav Raj	Airborne Volatile Organic Compounds as Signals for Stress Priming in *Arabidopsis thaliana* （シロイヌナズナにおける揮発性有機化合物によるストレスプライミング） 主査：准教授　伊藤　秀臣

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（薬科学）	EKPONO（エポノ） Ezebuilo（エゼブイロ） Ugbala（ウバラ）	Mechanism of Proline Substitutions in Stabilizing the Prefusion State of the SARS-CoV-2 Spike Protein （SARS-CoV-2スパイクタンパク質におけるプロリン置換による膜融合前状態の安定化メカニズム） 主査：教授　前仲　勝実
	陳　鏐安（チン　リュウアン）	Characterization and design of antibodies targeting viral glycoproteins （ウイルス糖タンパク質を標的とした抗体の特性解析および設計） 主査：教授　前仲　勝実
	潘　旭（ハン　キョク）	Enhanced Sampling Simulations Reveal Mechanisms of Antibody Escape and Guide Antibody Design against SARS-CoV-2 Variants （拡張サンプリングシミュレーションを用いたSARS-CoV-2変異体に対する抗体逃避機構の解明及び合理的抗体設計への応用） 主査：教授　前仲　勝実
博士（ソフトマター科学）	胡　知彦（コ　シゲン）	Machine Learning-Enabled Quantification of Fucosylated Human Milk Oligosaccharides in Human Breast Milk by Benchtop ^{1}H NMR Spectroscopy （卓上NMRと機械学習を用いたヒト母乳中フコシル化ヒトミルクオリゴ糖の定量） 主査：教授　相沢　智康
	蒋　佳稀（ショウ　カキ）	Benchtop NMR-based lactose quantification in human milk: correction of oligosaccharide interference and comparison with high-field NMR （卓上NMRに基づくヒト母乳中ラクトース定量：オリゴ糖干渉の補正および高磁場NMRとの比較） 主査：教授　相沢　智康
博士（教育学）	胡　亜楠（コ　アナン）	小売業における非正規雇用問題に関する実証的研究―非正規雇用の「活用」と業務基準書の「活用」に着目して― 主査：教授　駒川　智子
	Nurshuhaida（ヌルシュハイダ） Binti Mohd（ビンティ　モハマド） Shokri（ショクリ）	A Collective Case Study: Applying the *iMindful Diary* as an Experiential Learning Intervention to Sustain Character-Building among Adult Learners in Higher Education （高等教育における成人学習者の人格形成を支える体験学習的介入としての *iMindful Diary* の適用に関する集団的ケーススタディ） 主査：教授　Jeffry　Gayman
	大津　恵実（おおつ　えみ）	若者における意味交渉過程としての探索的参加―ユースセンターのロビーにおける空間共有実践に着目して― 主査：教授　辻　智子
	髙橋　陸斗（たかはし　りくと）	小学校の教室内掲示物はどのように学級に関与するのか－教師の「貼る」と児童の「見る」を結ぶ時間差のある媒介の検討－ 主査：教授　加藤　弘通
博士（学術）	日髙　慶美（ひだか　よしみ）	日本語の謝罪の定型表現の語用論的研究－「ごめんなさい」とその変異形「ごめん」と「ごめんね」の分析－ 主査：教授　鄭　惠先
博士（観光学）	趙　茜（チョウ　シー）	Ski Destinations and DMO Responses to Climate Change from a Resilience Perspective - A Case Study of Niseko, Japan （気候変動に対するスキー観光地とDMOの対応に関するレジリエンス視点からの考察―日本のニセコエリアを事例として） 主査：教授　エデルヘイム　ヨハン
博士（工学）	WANG Yang（ワン　ヤン）	Study on Manufacturing Method and Irradiation Resistance of MAX phase: Zr_3AlC_2 （MAX相Zr_3AlC_2の製造法と耐照射性に関する研究） 主査：教授　橋本　直幸
	Delfin Jerric（デルフィン　ジェリック） Rojas（ロハス）	PARAMETRIC THERMOACOUSTIC INSTABILITIES IN FLAME PROPAGATION （火炎伝播におけるパラメトリック熱音響不安定性） 主査：教授　橋本　望

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	深田（ふかだ） 真衣（まい）	端面燃焼式ハイブリッドロケットにおけるRegression Mode燃焼特性および燃焼モード遷移機構の解明 主査：教授　永田　晴紀
	Xin（シン） LIU（リュウ）	INVESTIGATION OF COMBUSTION CHARACTERISTICS OF MICRON-SIZED IRON PARTICLE CLOUDS （マイクロメートル級鉄粒子雲の燃焼特性に関する研究） 主査：教授　橋本　望
	井内（いうち） 悠介（ゆうすけ）	屋外環境の植物を対象とした幾何学的文脈を活用した物体検出・インスタンスセグメンテーション手法の研究 主査：准教授　江丸　貴紀
	WANG（オウ） XIN（キン）	可変軸剛性複合材における機械学習援用繊維経路設計およびトポロジー最適化に関する研究 主査：教授　本田　真也
	Nopphanan（ノッパナン） Phannakham（パッナカム）	AI-assisted non-destructive diagnosis of corrosion in reinforced concrete using acoustic and optical methods （音響・画像情報のAI解析による鉄筋コンクリートの劣化診断手法） 主査：准教授　橋本　勝文
	山田（やまだ） 嵩（たかし）	地上観測・リモートセンシング・積雪モデルの統合による山岳域における流域積雪水量の推定 主査：教授　山田　朋人
	劉（リュウ） 善鵬（ゼンホウ）	Mountain Watershed Geo Hazards Recognition and Transportation Infrastructure Risk Assessment using Spatial Data–Driven Deep Learning （山地流域の地盤災害エリア識別と交通インフラのリスク評価のための空間データ駆動型深層学習手法に関する研究） 主査：准教授　磯部　公一
	Hirvonen（ヒリヴォネン） Erkki（エリッキ） Matias（マティアス）	Study on Improving the Thermal Insulation Performance of Structured Core Transparent Vacuum Insulation Panels and on Their Application in Actual Buildings （光透過型真空断熱材の断熱性能向上と実建物への適用に関する研究） 主査：教授　葛　隆生
	Abel（アベル） Abebe（アベベ） Ersulo（エルスロ）	Integration of Conventional Groundwater Flow Simulations and Artificial Neural Networks for Predictive Modeling of Complex Hydrogeological Systems in Abandoned Mining Sites （休廃止鉱山における複雑な水文地質システムの予測モデリングに向けた従来型地下水流動解析と人工ニューラルネットワークの統合） 主査：教授　廣吉　直樹
	Angesom（アンゲソム） Gebretsadik（ゲブレツァディク） Abraha（アブラハ）	Development of an AI Driven Digital Twin Framework for Predictive Modeling and Real Time Visualization in Sustainable Mining （AIを活用した持続可能な採鉱における予測モデリングおよびリアルタイム可視化のためのデジタルツインフレームワークの開発） 主査：教授　川村　洋平
	Angelo（アンジェロ） Kennedy（ケネディ） Lino（リノ） Limaluka（リマルカ）	Modeling H_2 and CO_2 Geological Storage with Optimized Geochemical Interaction and Trapping Analysis （高度化した地球化学的相互作用およびトラッピング解析に基づくH_2・CO_2地中貯留モデリング） 主査：教授　エラクネス　ヨガラジャ
	河村（かわむら） 大樹（だいき）	バイオセメンテーションを活用した固化培土に関する実験的研究 主査：教授　川﨑　了
	Zhai（ザイ） Qi（キ）	MOLECULAR INSIGHTS INTO THE ROLE OF TRIETHANOLAMINE IN CEMENTITIOUS MATERIALS: FROM ADSORPTION AND CALCIUM COMPLEXATION TO HYDRATE FORMATION PATHWAY SELECTION （セメント系材料におけるトリエタノールアミンの作用機構に関する分子論的解明：吸着・カルシウム錯形成に基づく水和物生成経路の解明） 主査：准教授　胡桃澤　清文

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	トゥリンガン Turingan カセイ オリバー Casey Oliver アレラノ Arellano	Application of spent slag-chitosan composites in the semi-passive treatment of acid mine drainage （酸性坑廃水処理への使用済みスラグ–キトサン複合材の活用 —セミパッシブトリートメントシステムへの適用—） 主査：准教授　有馬　孝彦
	ソウ リ Zheng Li	Numerical simulation of long-term large deformation of coal mine roadways based on an elasto-plastic DDM framework （弾塑性DDMフレームワークに基づく炭鉱坑道の長期大変形の数値シミュレーション） 主査：特任教授　藤井　義明
博士（総合化学）	コ ジュンヤオ 柯　鈞耀	Precision Synthesis and Functional Design of Fluorinated Polyesters Based on Ring-Opening Alternating Copolymerization （開環交互共重合を基盤とする含フッ素ポリエステルの精密合成と機能設計） 主査：教授　松本　謙一郎
	ショウ ユジン 邵　俞仁	Side-Chain Engineering for Modulating Luminescent Properties of Polyesters via Ring-Opening Alternating Copolymerization （開環交互共重合を介した側鎖設計によるポリエステルの発光特性制御） 主査：教授　松本　謙一郎
博士（理学）	エン コウハク 袁　鴻博	Flux Crystal Growth, Crystal Structures, and Properties of Novel Transition Metal Oxysulfides with Ruddlesden-Popper Structures （フラックス結晶成長法によるルドレスデン–ポッパー型新規遷移金属オキシサルファイドの合成、結晶構造および物性研究） 主査：教授　松井　雅樹
	おのうえ かな 尾上　可南	Interfacial Materials Design for Solid-State Ionics Based on Chemical Potential Gradient Control （化学ポテンシャル勾配制御に基づく固体イオニクス材料の固固界面設計） 主査：特任教授　佐田　和己
	ソウ エン 宋　艶	Generation of Polar Radical Species from Fluoroform and Metal Formates for Selective Functionalization of Unsaturated Systems （フルオロホルムおよび金属ギ酸塩に由来する極性ラジカル種の発生と不飽和化合物の選択的官能基化への応用） 主査：教授　前田　理
	たかだ なおと 高田　奈緒人	Study on Phase Transitions Behavior of Ruddlesden–Popper-Type Oxysulfides upon Electrochemical Lithium-Ion Intercalation and Deintercalation （Ruddlesden–Popper型酸硫化物の電気化学的リチウムイオン挿入および脱離過程における相転移挙動に関する研究） 主査：教授　村山　徹
	まつたに さとし 松谷　叡	Development of Transition State Conformation Sampling Method and Mechanistic Analyses of Asymmetric Catalytic Reactions Using Quantum Chemical Calculations （量子化学計算を用いた遷移状態配座探索手法の開発と不斉触媒反応の機構解析） 主査：教授　武次　徹也
	リ メジュン 李　芷珺	Structure Stabilization and Physical Properties in High-Pressure Oxides and Au_4Al-Type Suboxides （高圧酸化物およびAu_4Al型亜酸化物における構造安定化と物性） 主査：特任教授　佐田　和己
博士（工学）	ソ ホンチョウ 蘇　本超	Development of an Upgrading Process for Low-Grade Iron Ore Using Alkaline Treatment （アルカリ処理を用いる低品位鉄鉱石アップグレーディングプロセスの開発） 主査：教授　向井　紳
	みよし ロビション ブノワ　せいじ 三好　生二	Studies on the Fabrication and Structural Enhancement of Zeolite Honeycomb Monoliths （ハニカム構造を導入したゼオライトモノリスの合成と機能強化に関する研究） 主査：教授　菊地　隆司

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	赤池 瞬（あかいけ しゅん）	視覚イメージ単純認識検査（VISRET）の開発と臨床応用―アルツハイマー病を対象とする心理計量学的検討 主査：教授 朝倉 聡
	海 涵（カイ カン）	Comparative whole-body kinome screening identifies STK17B as a shared vulnerability across clinically dominant PDAC genotypes （個体レベルキノームスクリーニングによる、臨床で高頻度に認められる膵管腺がん遺伝子型に共通する脆弱性因子STK17Bの同定） 主査：教授 木下 一郎
	GIRGIN Birkan（ギルギン ビルカン）	Effects of the histamine N-methyltransferase inhibitor metoprine in mouse models of hypersomnia （過眠症モデルマウスにおけるヒスタミンN-メチルトランスフェラーゼ阻害剤メトプリンの効果） 主査：教授 神谷 温之
	高 婧雯（コウ セイブン）	ラットとハムスターを用いた低温虚血再灌流の基礎的研究―冬眠動物から学ぶ新しい心臓保存法の開発― 主査：教授 安斉 俊久
	齋藤 翔太（さいとう しょうた）	動的心臓交感神経活性指標としてのTpTe / QTeの有用性の検討 主査：教授 森本 裕二
	田中 崇倫（たなか たかつぐ）	慢性肝疾患におけるカヘキシアの臨床的意義：予後および早期診断への示唆 主査：准教授 七戸 俊明
	玉城 良（たまき りょう）	思春期の教育介入が愛着形成に及ぼしうる影響に関する研究～周産期管理に関連する観察研究を含めて～ 主査：教授 安部 崇重
	張 孜恒（チョウ シコウ）	Structuring Japanese SOAP Notes with Large Language Models: A Schema-Guided Hierarchical Multi-Label Framework （大規模言語モデルによる日本語SOAPノートの構造化：スキーマ指向・階層型マルチラベル枠組み） 主査：教授 榊原 純
	斉 羿（チー イー）	Mechanisms Underlying Transient FLAIR Hyperintensity Following Intracranial Stem Cell Transplantation: A Reverse Translational Research （脳内幹細胞移植後に認められる一過性FLAIR高信号の発生機序に関するリバーストランスレーショナル研究） 主査：教授 田中 真樹
	鄭 煜源（テイ イクゲン）	Clazosentan Affects Temporal Profile of Endothelin-A Expression in Macro- and Microcirculation after Subarachnoid Hemorrhage （くも膜下出血後の大血管及び微小循環におけるエンドセリンA受容体発現の経時的変化に対するクラゾセンタンの影響） 主査：教授 吉川 雄朗
	傅 翹楚（フ チオチェウ）	Exploration of the mechanisms and significance of fetal reprogramming in colorectal cancer cells by using synthetic hydrogel （合成ハイドロゲルを用いた大腸癌細胞における胎児様リプログラミングの分子機構と病理学的意義の解明） 主査：教授 近藤 亨
	村上 俊文（むらかみ としふみ）	放射線誘発性骨壊死に対する有望な細胞療法としてのヒト乳歯歯髄由来幹細胞 主査：教授 野田 展生
	村木 岳史（むらき たけし）	本態性振戦に対するMRガイド下集束超音波視床凝固術における歯状核赤核視床路の構造的接続性解析 主査：教授 矢部 一郎
	目野 晃光（めの あきみつ）	切除不能肝細胞癌におけるcfDNAゲノミクス・エピゲノミクス解析によるアテゾリズマブ・ベバシズマブ治療効果予測 主査：教授 木下 一郎

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	李（リ） 穎彤（イントン）	AIモデルを用いたPET/CT画像における分化型甲状腺癌の転移病変の自動セグメンテーションおよびTMTV予測に関する研究 主査：教授　近藤　亨
博士（獣医学）	羅（ラ） 暁霏（シャオフェイ）	Physiological and endocrinological changes in relation to hibernation in male Japanese black bears （雄ニホンツキノワグマにおける冬眠と関連した生理学的及び内分泌学的変化） 主査：教授　岡松　優子
	川上（かわかみ） 侑記（ゆうき）	A Study on the Detection of Pulmonary Fibrosis using Pulmonary surface Shear Wave Elastography （肺表面Shear Wave Elastographyによる肺の線維化検出に関する研究） 主査：教授　安井　博宣
博士（医理工学）	Suebboonprathueng（スエブブンプラトウアン） Thanakrit（タナクリット）	The development of radiolabeled multimeric RGD peptides for radiotheranostic applications （ラジオセラノスティクスへの応用を目的とした放射標識多量体RGDペプチドの開発） 主査：教授　久下　裕司
	林（リン） 龍昕（リュウシン）	Cancer Diagnosis and Therapy using Radiolabeled Ligands Recognizing Transferrin Receptor 1 （トランスフェリン受容体1を認識する放射性標識リガンドによる癌診断・治療に関する研究） 主査：教授　久下　裕司
博士（獣医学）	中村（なかむら） 隼人（はやと）	Studies on immunosuppressive networks driven by T cell exhaustion and macrophage-mediated regulation in immune disorders of cattle （牛における免疫破綻をもたらすT細胞疲弊とマクロファージを介した免疫抑制機構に関する研究） 主査：教授　迫田　義博
博士（感染症学）	BARNES（バーンズ） David（デビッド） Atomanyi（アトマニー）	Insight into the molecular diversity of *Mycobacterium bovis* isolated from cattle in Ghana （ガーナの牛から分離された牛型結核菌の遺伝的多様性に関する研究） 主査：教授　東　秀明
	LAWAL（ラワル） Maryam Sani（マリアム サニ）	Enhanced Metagenomic Approaches for Viral Detection and Their Application in Unexplained Febrile Patients in Nigeria （メタゲノム解析を利用したウイルス検出法の改良と、ナイジェリアにおける原因不明発熱患者への応用） 主査：教授　澤　洋文
博士（獣医学）	前田（まえだ） 愛子（あいこ）	Elucidation of the dissemination mechanisms of fluoroquinolone-resistant *Escherichia coli* ST131 in the community （地域社会におけるフルオロキノロン耐性大腸菌ST131の拡散メカニズムの解明） 主査：教授　中島　千絵
博士（文学）	大野（おおの） 建（たける）	村上春樹初期小説研究 主査：教授　押野　武志
	趙（チョウ） 文軒（ブンケン）	武田泰淳にとっての＜中国＞―戦争と文学を中心に 主査：教授　水溜　真由美
博士（情報科学）	大西（おおにし） 悠生（ゆうせい）	A Study on Camera-Based Visible Light Positioning for Indoor Drones （屋内ドローンにおけるカメラベース可視光測位に関する研究） 主査：教授　杉本　雅則
博士（工学）	ZHOU（シュウ） Weikun（イコン）	Synthesis and Properties of Ferroelectric Perovskite Epitaxial Freestanding Sheets （強誘電体ペロブスカイトエピタキシャル自立膜の合成と物性） 主査：教授　石川　史太郎
博士（情報科学）	小川（おがわ） 和也（かずや）	人間の自律的意思決定を支援する適応型パーソナルAIエージェントの統合アーキテクチャ 主査：教授　土橋　宜典
	五箇（ごか） 亮太（りょうた）	機械学習に基づく映像内事象の早期予測に関する研究 主査：教授　小川　貴弘
	北川（きたがわ） 雅基（まさき）	拡張型運動生成メカニズムのモデル化のための運動戦略・戦術理論 主査：教授　田中　孝之

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（食資源学）	PHAM Thi（ファン ティ） Nguyen（グエン）	Labor Market Dynamics in Vietnam-Human Capital Investment and Income Differentials- （ベトナム労働市場のダイナミクス－人的資本投資と所得格差－） 主査：准教授　齋藤　陽子
博士（食資源学）	佐々木（ささき）　皓平（こうへい）	Redox Potential as an Indicator of Fermentation Dynamics and Intracellular Metabolism of *Saccharomyces cerevisiae* in Wine Alcoholic Fermentation （*Saccharomyces cerevisiae* を用いたワインのアルコール発酵における発酵動態および細胞内代謝の指標としての酸化還元電位） 主査：教授　曾根　輝雄

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（環境科学）	席（セキ）　浩森（コウシン）	Stratosphere-troposphere exchange of ozone and CO: Roles of different types of Rossby wave breaking with multiple chemical-reanalysis perspectives （オゾンと一酸化炭素の成層圏と対流圏の交換：複数の化学再解析の観点から見た異なるタイプのロスビー波砕波の役割） 主査：教授　藤原　正智
博士（理学）	関（せき）　元樹（もとき）	Weak limit theorem of two-dimensional two-state quantum walk （2次元2状態量子ウォークの弱収束定理） 主査：教授　宮尾　忠宏
博士（獣医学）	加藤（かとう）　美羅（みら）	Studies on the physiological role of vitamin A in the postnatal development of adipose tissue （脂肪組織の生後発達におけるビタミンAの生理的役割に関する研究） 主査：教授　岡松　優子
博士（感染症学）	三木（みき）（榎本（えのもと）） 万梨子（まりこ）	Studies on the assessment of baloxavir marboxil as an anti-influenza drug for potential therapeutic application in endangered avian species （抗インフルエンザ薬バロキサビル マルボキシルを用いた希少鳥類での治療に関する研究） 主査：教授　迫田　義博

▌レクリエーション

令和8年度学内教職員フットサル大会の開催

8月20日（木）～9月3日（木）に、第二体育館において学内教職員フットサル大会を開催しました。

今年も各部局等から数多く参加いただき、計15チームによる熱戦が繰り広げられました。今大会では、女性ゴール（1ゴール2得点）や試合終了間際の劇的弾なども見られ、会場は大いに盛り上がりました。

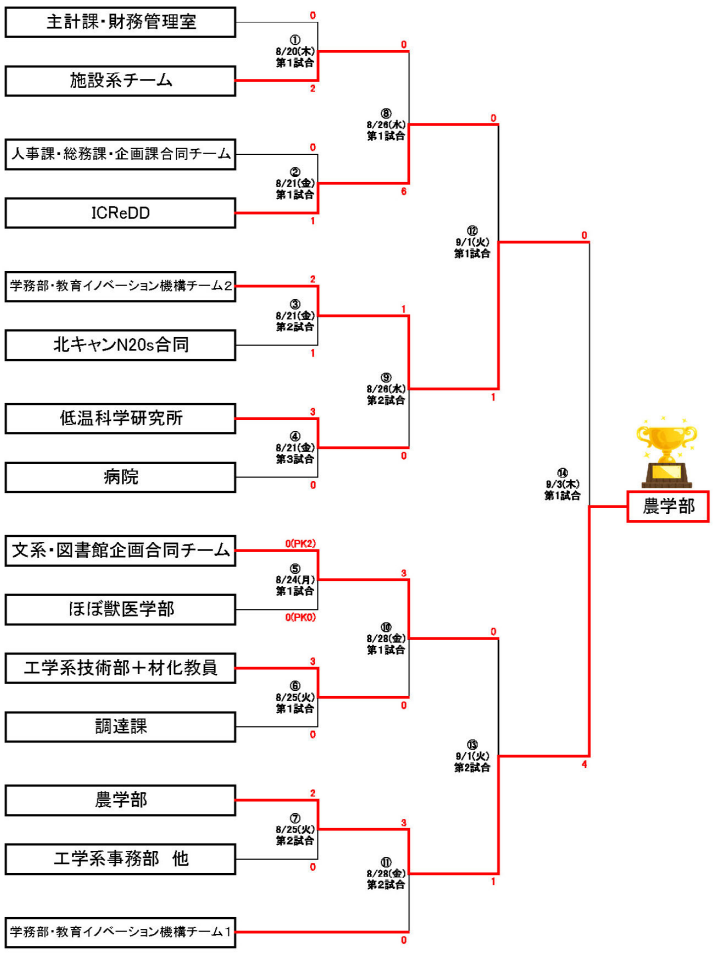
決勝戦では、農学部チームが学務部・教育イノベーション機構チーム2を4－0で破り、優勝を果たしました。大会結果は以下のトーナメント表のとおりです。

なお、教職員サッカークラブでは、入部・見学を随時受け付けています。興味のある方は、お近くの部員、もしくはウェブサイトの問い合わせ先までご連絡ください。

北大教職員サッカークラブウェブサイト：http://hokudaikyousyokuinsc.web.fc2.com/

（教職員サッカークラブ）

令和8年度 学内フットサル大会トーナメント表



R8フットサル大会・試合結果



優勝：農学部



準優勝：学務部・教育イノベーション機構チーム2

▌研修

令和8年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修

開催期間：令和8年8月18日（火）～20日（木）

開催場所：工学部フロンティア応用科学研究棟

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅技術職員として、現在の立場とその責務を自覚させるとともに、職務遂行に必要となる知識や社会的見識等を深め、国立大学法人等の技術系業務における中核となるべき職員として、その資質向上を図ることを目的とする。

主催部局：技術連携統括本部（ITeCH）



講義「ハラスメント防止」
（柿﨑真実子　ハラスメント相談室専門相談員）



講義「現場を動かし、その先へ～価値創造時代における技術職員の役割」
（岡　征子　技術連携統括本部　副本部長）



講義・グループワーク
（株式会社フォーブレ―ン）



受講者集合写真

令和8年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修

開催期間：令和8年8月26日（水）～28日（金）

開催場所：北海道大学クラーク会館

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅職員としての立場と責務を自覚させるとともに、職務に対する知識を深め、企画力及び問題解決能力の向上を図ることに加え、心身のセルフケアに関する意識を高めることを目的とする。

主催部局：総務企画部人事課



講義・グループワーク
（株式会社フォーブレーン）



講義・グループワーク
（株式会社ユーファースト）



特別講義
（中西祐二　文部科学省高等教育局高等教育企画課係長）



特別講義
（藤原弘幸　文部科学省大臣官房人事課専門官）

▌表敬訪問

海外

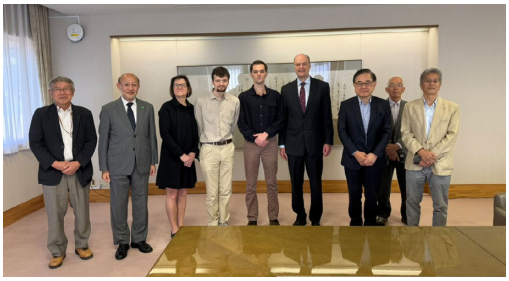
年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
8.9.3	駐日スリランカ民主社会主義共和国大使館　Pivithuru Janak Kumarasinghe 特命全権大使他2名	今後の交流に関する懇談
8.9.10	在香港日本国総領事館　三浦　潤 総領事（大使）	今後の交流に関する懇談
8.9.11	ウィリアム・スミス・クラーク博士玄孫　Granville Sewell氏及びご家族	クラーク博士に関する意見交換 （馬上のクラーク博士像除幕式出席のため来日）
8.9.25	ウィリアム・スミス・クラーク博士玄孫　Gwenn S. Gebhard氏夫妻	クラーク博士に関する意見交換 （創基150周年式典出席のため来日）



Pivithuru Janak Kumarasinghe
駐日スリランカ民主社会主義共和国大使（左から3人目）



三浦　潤 在香港日本国総領事（大使）（左）



Granville Sewell氏（左から6人目）



Gwenn S. Gebhard氏（左から2人目）

（国際部国際連携課）

▌人事

令和8年9月29日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【役員】		
（転出）		
文部科学省大臣官房付	横　井　理　夫	理事（副学長・事務局長）

令和8年9月30日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【教授】		
（辞職）	大　鐘　武　雄	大学院情報科学研究院教授
【課長・事務長・室長等】		
（辞職）	菅　原　暁　子	総務企画部総務課秘書室長

令和8年10月1日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【役員】		
理事（副学長・事務局長）	牛　尾　則　文	文部科学省文部科学戦略官
（期間：令和10年3月31日まで）		
【部局長・施設長等】		
広報・社会連携本部長	石　塚　真由美	理事（副学長）
（期間：令和10年3月31日まで）		
【教育研究評議会評議員】		
（期間：令和10年3月31日まで）	牧　　佐智代	大学院法学研究科教授
（期間：令和10年3月31日まで）	笠　井　久　会	大学院水産科学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）	三　輪　京　子	大学院地球環境科学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）	黒　岩　麻　里	大学院理学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）	小　川　美香子	総合イノベーション創発機構化学反応創成研究拠点・大学院薬学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）	志　村　華　子	大学院農学研究院教授
（期間：令和9年3月31日まで）	グ　ン　剣　萍	総合イノベーション創発機構化学反応創成研究拠点・大学院先端生命科学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）	駒　川　智　子	大学院教育学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）	矢　野　理　香	大学院保健科学研究院教授
（期間：令和10年3月31日まで）	小　林　夏　野	電子科学研究所教授
【教授】		
大学院法学研究科教授	郭　　薇	大学院法学研究科准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	田　代　亜紀子	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院医学研究院教授	白　水　和　宏	九州大学准教授
大学院公共政策学連携研究部教授	児矢野　マ　リ	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
【課長・事務長・室長等】		
総務企画部総務課長（兼）総務企画部総務課秘書室長	野　口　明　広	総務企画部総務課長

新任副学長等紹介

令和8年10月1日付



理事・副学長・事務局長に

牛尾（うしお）　則文（のりふみ）　氏

牛尾則文氏は、令和8年10月1日付で、理事・副学長・事務局長に発令されました。

任期は、令和10年3月31日までです。

担　当

事務統括、リスク管理統括、コンプライアンス統括、
労務全般、リスク管理、事務組織改革、
職員人事制度改革、障がい者対応、中央官庁調整、
コンプライアンス、ハラスメント対応、
研究公正・利益相反

略　歴

平成 3年 3月　東京大学法学部卒業
平成 3年 4月　文部省入省
平成 7年 7月　国際連合教育科学文化機関派遣
平成11年 4月　滋賀県教育委員会生涯学習課長
平成13年 7月　内閣官房司法制度改革推進本部事務局参事官補佐
平成24年 1月　文部科学省高等教育局私学部参事官
平成25年10月　文部科学省高等教育局専門教育課長
平成27年 4月　文部科学省研究振興局学術機関課長
平成29年 8月　日本学術振興会理事
令和元年 8月　文部科学省高等教育局高等教育企画課長
令和 2年 8月　スポーツ庁スポーツ総括官
令和 3年 9月　東北大学理事
令和 6年 7月　復興庁統括官付審議官
令和 8年 4月　文部科学省文部科学戦略官

新任教授紹介

令和8年10月1日付



法学研究科教授に

郭　薇（Guo,Wei.）　氏

法学政治学専攻基礎法講座

最終学歴
北海道大学大学院法学研究科博士後期課程修了（平成26年3月）
博士（法学）（北海道大学）

専門分野
法社会学、法情報学



メディア・コミュニケーション研究院教授に

田代　亜紀子　氏

メディア・コミュニケーション部門
国際地域文化論分野

生年月日
昭和50年10月10日

最終学歴
上智大学大学院外国語学研究科博士後期課程単位修得退学（平成18年3月）
博士（地域研究）（上智大学）

専門分野
東南アジア地域研究、文化遺産研究、観光学



医学研究院教授に

白水　和宏　氏

侵襲制御医学分野

生年月日
昭和50年9月2日

最終学歴
九州大学大学院医学研究科博士課程修了（平成21年3月）
博士（医学）（九州大学）

専門分野
麻酔学

編集メモ

● 日ごとに秋の深まりを感じる季節となりました。キャンパス内では木々の紅葉が進み、イチョウ並木も見頃を迎えつつあります。美しく色づく景観を楽しみに、多くの方々が足を運んでいます。

● 本学創基150周年を記念したオリジナルグッズとして、サンリオの人気キャラクター「ポムポムプリン」とコラボレーションしたミニタオルが発売されました。本学の秋を彩るイチョウ並木をモチーフとしたデザインで、大学生協各売店、オンラインショップで販売しています。お立ち寄りの際は、ぜひお手に取ってご覧ください。





キャンパス懐古 19 教養部前の運動会（1966年10月）

かつて札幌キャンパスでは、学生・教職員が参加する様々なスポーツの催しが開かれていた。個人参加型から学部開催、全学を挙げた企画まで規模は様々、学部対学部の勝負あり、学科や講座ごとのチーム戦あり、教養部クラス対抗戦ありと形も様々であった。種目もマラソン、駅伝、野球、ソフトボール、テニス、綱引きなど多岐にわたり、夏にはプール、冬にはスケート場も利用できた。戦後、1990年代くらいまではこうした「レジャー」が盛んな時代であった。

写真は北17条にあったグラウンド跡地（現第二体育館あたり）で開催した秋の運動会の玉入れ。背景には新築間もない教養部建物（現総合教育棟）。

（大学文書館・北海道大学150年史編集室）

北大時報 ⑩　No.871　　令和8年10月発行

北海道大学社会共創部広報課　〒060－0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html